

科目名 (英)	導入教育 Introductory education	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	彦根 幸子
		授業形態	演習		有		
学科・コース	歯科技工士科Ⅱ部	時間数	15	授業回数 (コマ数)	8	開講区分	前期
		単位	1			曜日/時間	月～金/ 5・6限
講師紹介	歯科技工士として大学附属病院での実務経験を有しており、その豊富な経験を活かし今後の歯科技工業界を見据えて必要な知識を深める授業を行う。						
目的	歯科技工士として働くために必要な、身構え、気構え、心構えを習得する。						
科目概要	専任教員、学校長、歯科技工所経営者、歯科医師など、様々な立場の先生からの講義を聴講する。授業では、歯科技工士に期待される役割を果たすために在学中3年間の目標を立てる。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・歯科医療の中での歯科技工士の役割を説明することができる。 ・社会人として自分がこれから身に付けなければいけないことを説明することができる。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験(評価)を受けることができない。 評価は、レポートで行う。講義毎に課すレポートを各100点満点で採点し、その平均点で評価する。各レポートの提出日は追って指示する。 <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input checked="" type="checkbox"/> レポート</p>						
教科書	Hand-book of Life Style			事前事後 学習と その内容	講義の後にレポートを提出する。比較的受身の授業ではあるが、講師の発言は、どのような考えで発言されたのかを考えてみよう。		
参考図書	必要に応じて紹介する。						
特記事項	必要に応じてプリントを配布する。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	授業心得	演習	歯科医療人として働くための身構え、気構え、心構えについて理解する。
2	基礎学力確認テストならびに解説講義	演習	基礎学力確認テストを受験し、その解説を聴講する。専門教育に向けて、必要な予備知識がどの程度把握できているか確認する。
3	業界講演 社会人基礎力	演習	歯科技工所経営者による講義を聴講することで、社会人としてどのような心構えが必要かを理解する。
4	自己分析	演習	自分史を作成することにより、自分のこれまでの経験や思考を整理し、自分の長所・短所・志向性などを客観的に理解することで、今後の知識や技術の習得に活用する。
5	入学式振り返り	演習	入学式を振り返り、学園全体の思い、保護者の期待を再確認し今後の学校生活に向けた気持ちを整理する。
6	学校長講演	演習	学校長による講演を聴講し、ヒトを含めた動物にとって命をつなぐために必要な歯の重要性を知り、歯の不具合を治す歯科医療と歯科技工士の重要性について理解する。
7	休暇前オリエンテーション	演習	入学から現在までを振り返り、各自定めた目標とその差異及び、夏季休暇中の過ごし方を考える。2年生、3年生と共にその思いを共有する。
8	卒業生講演	演習	歯科医師、歯科技工士による講演を聴講し、歯科技工士は治療現場においてコ・デンタルスタッフとして、どのような役割を担っているのかを理解する。

科目名 (英)	コミュニケーション基礎 Communication Science	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	彦根 幸子
		授業形態	演習		無		
学科・コース	歯科技工士科Ⅱ部	時間数	15	授業回数 (コマ数)	8	開講区分	前期
		単位	1			曜日/時間	月～金/ 5・6限
講師紹介	歯科技工士として大学附属病院での実務経験を有しており、その豊富な経験を活かし今後の歯科技工業界を見据えて必要な知識を深める授業を行う。						
目的	歯科技工士として製作に従事する際においても、コミュニケーションの重要性を理解する。						
科目概要	クラス運営のルールや社会における情報リテラシーを理解し、円滑なコミュニケーションがとれるようになることを目指す。具体的には、講義を聴講し、クラスの同級生とのグループワークという実践を通して、コミュニケーションの重要性を理解する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・主体性を持ってコミュニケーションをとることができる。 ・デジタルコミュニケーションでの善悪を判断することができる。 ・クラス全体での行動を通して、互いの価値を認められるようになる。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。</p> <p>評価は、レポートで行う。講義毎に課すレポートを各100点満点で採点し、その平均点で評価する。各レポートの提出日は追って指示する。</p> <p><input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input checked="" type="checkbox"/> レポート</p>						
教科書	めきめき本物の国語力が身につくコミュニケーション技法			事前事後 学習と その内容	事後学習: 授業内で経験した内容を元に自分からの発信によって相手がどのように受け取るのか自問自答する習慣を身につけられるようになると良い。		
参考図書	なし						
特記事項	必要に応じてプリントを配布する。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	3つの習慣	演習	主体性を発揮し、「自ら進んでコミュニケーションをとる」ことの重要性を理解する。
2	自己紹介(言葉の花束)	演習	指定した上顎、下顎口腔内模型の前歯部のデッサンし、自分の歯の形のタイプを理解する。
3	ITリテラシー	演習	デジタル上でのコミュニケーションツールであるSNSについての注意すべき点を理解する。
4	歯科衛生士とは	演習	同じコ・デンタルスタッフとして働く歯科衛生士の業務を知り、歯科治療の大きな流れ及びチーム歯科医療における歯科技工士と歯科衛生士の業務連携について理解する。
5	クラス目標の設定	演習	クラス全員が歯科技工士として従事するために必要なことは何か話し合い、クラス全体で目標を設定する。
6	口蓋板装着体験	演習	材料加工実習において製作した口蓋版を装着し、義歯装着患者の気持ちを理解するとともに、それぞれの感想を共有する。
7	振り返り(まとめと反省) プレゼンテーション	演習	入学から現在までに受けた授業や体験したことを振り返り、レポートを作成する。発表を通して、習得したコミュニケーション技術を実践する。
8	卒業生講演を聴講して	演習	卒業生講演を聴講して、感じたことをレポートに作成する。またその内容を共有する。

科目名 (英)	造形美術概論 Compendium of Art of Dental Technology	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	田村 睦
		授業形態	演習		有		
学科・コース	歯科技工士科Ⅱ部	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
		単位	1	(コマ数)		曜日/時間	月～金/ 5・6限
講師紹介	歯科大学附属病院、歯科技工所、歯科医院での臨床経験があり、教員経験も長い歯科技工士教員が授業を担当する。						
目的	ヒトの歯について、解剖学的形態を知り、歯の形態観察方法及び再現方法の基礎を理解する。						
科目概要	「歯の解剖学」で扱う歯の形態的特徴について、形態の観察方法及び歯の再現方法の基礎を理解し、歯牙模型の展開図のデッサンを通じて形態的特徴を再現する練習を行う。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・上顎中切歯の形態的特徴を理解し、展開図に表現することができる。 ・上顎第一大臼歯の形態的特徴を理解し、展開図に表現することができる。 ・口腔内模型の前歯部、歯列デッサンを行い、自分の歯の形や歯列の形のタイプが表現することができる。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、実技試験として「作品提出」80点、の他、レポートの評価を20点の100点満点とする。初回授業のコマシラバスにて評価の項目を示す。提出物の期限は別途指示する。</p> <p><input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input checked="" type="checkbox"/> レポート</p>						
教科書	オリジナルプリント			事前事後 学習と その内容	事前学習： シラバスを読み、授業テーマ・授業内容を確認する。 事後学習： 授業時間内に課題が終了しない時は、次回の授業までに終えること。		
参考図書	最新歯科技工士教本「歯科技工造形学」(医歯薬出版)						
特記事項	受講に際し、「必要な準備」は筆記用具とオリジナルプリントである。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	歯の観察の前に(幾何学的錯視) 上顎中切歯の形態的特徴の表現	演習	上顎中切歯の展開図の唇側面観・舌側面観デッサンを描く。
2	前歯の形のタイプの種類 口腔内模型の前歯部の特徴の表現	演習	指定した上顎、下顎口腔内模型の前歯部のデッサンし、自分の歯の形のタイプを理解する。
3	上顎中切歯の形態的特徴の表現	演習	上顎中切歯の展開図の近心面観・切縁面観デッサンを描く。
4	上顎第一大臼歯の形態的特徴の表現	演習	上顎第一大臼歯の展開図の咬合面観・頬側面観デッサンを描く。
5	上顎第一大臼歯の形態的特徴の表現	演習	上顎第一大臼歯の展開図の咬合面観・頬側面観デッサンを描く。
6	上顎第一大臼歯の形態的特徴の表現	演習	上顎第一大臼歯の展開図の咬合面観・頬側面観デッサンを描く。
7	上顎第一大臼歯の形態的特徴の表現	演習	上顎第一大臼歯の展開図の咬合面観・頬側面観デッサン描く。
8	歯列の形のタイプの種類 口腔内模型の歯列の特徴の表現	演習	上顎、下顎口腔内模型の歯列をデッサンし、特に自分の歯列について、形のタイプを理解する。

科目名 (英)	歯科英語 English for Dental Technology	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	内田 愛
		授業形態	講義		有		
		時間数	15	授業回数 (コマ数)	8	開講区分	
学科・コース	歯科技工士科Ⅱ部	単位	1			曜日/時間	月～金/ 5・6限
講師紹介	大学の英米文学科を卒業し、大学文学部の非常勤講師を務める講師がその実務経験を活かし授業を行う。						
目的	歯科技工で使用される器具器材を中心とした歯科に関する英語に触れ、限定的ではあるが英語による業界コミュニケーションが図れる技術を習得する。						
科目概要	歯科に関する専門用語について日本語と同時に英語でも理解する。歯科医院や歯科技工所で行われる基本的な英会話文を用いて、会話練習及びその内容を理解する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・歯科医院で行われる典型的な会話を聞き、その内容を理解することができる。 ・歯科技工で用いられる用語について、対応する英単語を書くことができる。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。</p> <p>評価は、筆記試験で行う。試験内容は、知識を確認する問題(空欄補充等)、理解を確認する問題(記述等)の両方を出題する。</p> <p>■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート</p>						
教科書	なし		事前事後 学習と その内容		授業の終わりに、その日の講義内容の「振り返り」を行う。 授業後にも「振り返り」を再度見直し、授業の理解度を深めることが望ましい。		
参考図書	なし						
特記事項	授業に必要なプリントは随時配付する。						

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	あいさつ	講義	歯科技工士である自分を紹介するための会話を理解する。
2	歯が痛い	講義	歯科医院内での患者に対する会話(治療の流れ)を理解する。
3	入れ歯を入れたい	講義	歯科医院内での患者に対する会話(義歯について)を理解する。
4	歯並びを治したい	講義	歯科医院内での患者に対する会話(矯正治療)を理解する。
5	クラウンの製作	講義	クラウン製作工程に用いられる英単語を理解する。
6	陶材焼付け金属冠の製作	講義	陶材焼付け金属冠製作工程に用いられる英単語を理解する。
7	義歯の製作	講義	義歯製作工程に用いられる英単語を理解する。
8	復習	講義	歯科英語第1回～第7回目の復習を行い理解度を深める。

科目名	歯科技工学概論	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	小島 三知長
		授業形態	講義		有		
(英)	Compendium of Dental Technology Science	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
学科・コース	歯科技工士科Ⅱ部	単位	1	(コマ数)		曜日/時間	月～金/ 5・6限
講師紹介	歯科大学附属病院、歯科技工所(自費技工専門)、歯科診療所技工室において実務経験のある教員が、その経験を活かして、初心者にもわかりやすく、歯科技工士の業務内容や歯科技工士の資格取得に必要な知識の概要を講義する。						
目的	歯科技工の重要性及び歯科技工物の概要について理解し、歯科医療に関する全般的な知識を習得する。						
科目概要	日常的に歯科技工士が使用する様々な歯科材料、器具、機械の名称及びそれらの役割を理解する。また、歯科技工士が製作する基本的な歯科技工物の名称とその役割を理解する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・歯科技工用機械・器具・材料の名称や役割について理解する。 ・歯科の二大疾患の名称をその治療方法を理解する。 ・基本的な歯科技工物(補綴装置)の種類やそれらの製作方法について理解する。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 筆記試験を100点満点として評価する。試験内容は、知識を確認する問題(空欄補充等)、理解を確認する問題(記述等)の両方を出題する。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート</p>						
教科書	入学前から始める！歯科技工の基礎知識 (滋慶教育科学研究所) 配布資料「歯科技工学概論」(オリジナル)			事前 事後 学習と その内容	事前学習：シラバスおよび教科内容の確認(最低限)、わかる範囲で配布資料の穴埋め(15分以上) 事後学習：授業の最初に実施する前回分の内容の小テスト(穴埋め10問程度)に合格(60%以上)できるよう復習をしておく。(30分以上)		
参考図書	歯科聞き言葉辞典(医歯薬出版)						
特記事項	内容理解のために、聞いているだけの講義ではなく、適宜問いかけコミュニケーションをとる授業運営を行う。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	歯科技工用機械・器具・材料-1	講義	歯科技工用機械・器具・材料について、実物を確認し、写真を用いて理解する。
2	歯科技工用機械・器具・材料-2	講義	歯科技工用機械・器具・材料について、実物を確認し、写真を用いて理解する。
3	歯科の二大疾患とは？	講義	歯の構造、虫歯(う蝕)と歯周病について知り、歯科の二大疾患の原因と治療法について理解する。
4	虫歯になったら	講義	虫歯(う蝕)の程度の違いによる治療方法について学び、直接法と間接法について理解する。
5	補綴装置の種類	講義	口の中(口腔内)で使用される各種補綴装置の種類を知り、それらの特徴を理解する。
6	補綴装置の製作順序	講義	口の中(口腔内)で使用される各種補綴装置の製作方法を知り、それらの製作手順を理解する。
7	基礎学力 確認	講義	歯科技工を学ぶ上で必要な基礎学力となる、①漢字の読み書き ②金属の元素記号と融点③単位・密度・比重や計算 ④英単語について、確認テストを通して理解する。
8	復習	講義	1回～7回までに学習した内容を、教科書、配布プリント、小テストを活用して振り返り理解する。

科目名 (英)	歯の解剖学基礎 I Dental Anatomy-Basis I	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	田村 睦
		授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科技工士科Ⅱ部	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
		単位	1	(コマ数)		曜日/時間	月～金/ 5・6限
講師紹介	歯科大学附属病院、歯科技工所、歯科医院での臨床経験があり、教員経験も長い歯科技工士教員が授業を担当する。						
目的	歯科技工士として必要な歯に関する専門的知識を習得する。						
科目概要	歯に関する専門用語と永久歯の形態的特徴について理解し、1本の歯が上下左右どの位置にするのかを判断できるようになる。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・歯科関係者の共通言語である専門用語を理解することができる。 ・ヒトの永久歯の全般的な特徴について説明することができる。 ・上顎切歯、犬歯、上顎大臼歯の形態的特徴を説明することができる。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 筆記試験を100点満点として評価する。試験内容は、知識を確認する問題(空欄補充等)、理解を確認する問題(記述等)の両方を出題する。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート</p>						
教科書	最新歯科技工士教本「口腔・顎顔面解剖学」(医歯薬出版)	事前事後 学習と その内容	事前学習: シラバスおよび教科内容を確認し、教科書を 音読することを推奨する。				
参考図書	別途、授業内で紹介する。		事後学習: 前回の内容の確認テスト(穴埋め10問程度)に 合格(60%以上)できる復習をしておく。				
特記事項	国家試験科目(学説試験)						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	オリエンテーション 歯の専門家を目指しての第一歩	講義	歯の種類と分類方法。歯の記号と歯式、方向を表す用語を理解する。
2	上顎中切歯の特徴	講義	歯牙模型の観察を通して、上顎中切歯の形態的特徴を理解する。
3	上顎側切歯の特徴	講義	歯牙模型の観察を通して、上顎側切歯の形態的特徴を理解する。また、中切歯と側切歯の相違を確認することで、それぞれの理解を深める。
4	犬歯の特徴	講義	歯牙模型の観察を通して、犬歯の形態的特徴を理解する。また、上顎と下顎の相違を確認することで、それぞれの形態的特徴の理解を深める。
5	上顎第一大臼歯の特徴	講義	歯牙模型の観察を通して、上顎第一大臼歯の形態的特徴を理解する。
6	上顎第二大臼歯の特徴	講義	歯牙模型の観察を通して、上顎第二大臼歯の形態的特徴を理解する。
7	上顎大臼歯の特徴	講義	歯牙模型の観察を通して、上顎第一大臼歯と上顎第二大臼歯の相違を確認し、それぞれの形態的特徴を理解を深める。
8	復習	講義	1～7回の授業で使用したプリント、実施した小テストを復習し、試験に備える。

科目名 (英)	歯の解剖学基礎Ⅱ Dental Anatomy-BasisⅡ	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	田村 睦
		授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科技工士科Ⅱ部	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
		単位	1	(コマ数)		曜日・時間	月～金/ 5・6限
講師紹介	歯科大学附属病院、歯科技工所、歯科医院での臨床経験があり、教員経験も長い歯科技工士教員が授業を担当する。						
目的	歯科技工士として必要な歯、特に大臼歯に関する専門的知識を習得する。						
科目概要	歯に関する専門用語と永久歯、特に大臼歯の形態的特徴について理解し、1本の歯が上下左右どの位置にするのかを判断できるようになる。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・歯科関係者の共通言語である専門用語を理解することができる。 ・小臼歯、下顎大臼歯、下顎切歯の形態的特徴を説明することができる。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 筆記試験を100点満点として評価する。試験内容は、知識を確認する問題(空欄補充等)、理解を確認する問題(記述等)の両方を出題する。</p> <p>■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート</p>						
教科書	最新歯科技工士教本「口腔・顎顔面解剖学」(医歯薬出版)	事前事後 学習と その内容	事前学習: シラバスおよび教科内容を確認し、教科書を音読することを推奨する。				
参考図書	別途、授業内で紹介する。		事後学習: 前回の内容の確認テスト(穴埋め10問程度)に合格(60%以上)できる復習をしておく。				
特記事項	国家試験科目(学説試験)						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	下顎第一大臼歯の特徴	講義	歯牙模型の観察を通して、下顎第一大臼歯の形態的特徴を理解する。
2	下顎第二大臼歯の特徴	講義	歯牙模型の観察を通して、下顎第二大臼歯の形態的特徴を理解する。また、下顎第一大臼歯との相違を確認することで、それぞれの理解を深める。
3	上顎第一小臼歯の特徴	講義	歯牙模型の観察を通して、上顎第一小臼歯の形態的特徴を理解する。
4	上顎第二小臼歯の特徴	講義	歯牙模型の観察を通して、上顎第二小臼歯の形態的特徴を理解する。また、上顎第一小臼歯との相違を確認することで、それぞれの理解を深める。
5	下顎第一小臼歯の特徴	講義	歯牙模型の観察を通して、下顎第一小臼歯の形態的特徴を理解する。
6	下顎第二小臼歯の特徴	講義	歯牙模型の観察を通して、下顎第二小臼歯の形態的特徴を理解する。また、下顎第一小臼歯との相違を確認することで、それぞれの理解を深める。
7	下顎切歯の特徴	講義	歯牙模型の観察を通して、下顎中切歯と下顎側切歯の相違を確認し、それぞれの形態的特徴を理解する。
8	復習	講義	1～7回の授業で使用したプリント、実施した小テストを復習し、試験に備える。

科目名 (英)	歯型彫刻基礎 I Basic Training of Dental Carving I	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	田村 睦
		授業形態	実習		有		
学科・コース	歯科技工士科Ⅱ部	時間数	30	授業回数 (コマ数)	15	開講区分	前期
		単位	1			曜日/時間	月～金/ 5・6限
講師紹介	歯科技工士として歯科大学附属病院、歯科技工所、歯科医院での臨床経験を有した教員が、臨床事例と関連づけて、歯型彫刻の手法を指導する。						
目的	歯をつくる歯科技工士にとって基礎となる歯型彫刻(角柱から面取り)の反復練習を通じて、歯の解剖学的形態的特徴を表現できるようになる。						
科目概要	上顎中切歯、上顎犬歯の角柱から面取りの流れを理解し、上顎中切歯、上顎犬歯の形態的特徴を立体で表現できるようになる。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 角柱の彫り方がわかり、制限時間内にできる。 上顎中切歯、上顎犬歯の面取りの手順がわかり、反復練習できる。 上顎中切歯の角柱～面取りが制限時間内にできる。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、実技試験として「作品の評価」を70点、レポートの評価を30点として100点満点とする。提出日は最終授業日から7日後の16:45までとする。 <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input checked="" type="checkbox"/> レポート</p>						
教科書	最新歯科技工士教本「口腔・顎顔面解剖学」(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	事前学習: シラバスを確認し、必要な道具類を準備して授業に臨む。 動画を視聴し動作のイメージをつかむ。 事後学習: 毎日30分程度、自主的な練習に取り組む。		
参考図書	別途、授業内で紹介する。						
特記事項	国家試験科目(実地試験)						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	歯型彫刻の意義、重要性 使用する道具(ノギス・切り出し)の使い方	実習	ノギス・切り出しナイフの使い方について習得する。練習課題として、斜面と箱型の削りで実践する。
2	上顎中切歯(1.3倍大)角柱の彫り出し	実習	歯型彫刻における角柱の意義を理解し、上顎中切歯(1.3倍大)の計測から角柱の彫り出しをデモと一緒に実践する。
3	上顎中切歯(1.3倍大)角柱の彫り出し	実習	上顎中切歯(1.3倍大)角柱の彫り出しの手順を理解し、ステップ毎にチェックを受けながら実践し、早くできたら反復練習に取り組む。
4	上顎中切歯(1.3倍大)の面取り① 唇側面と近心面	実習	自分史を作成することにより、自分のこれまでの経験
5	上顎中切歯(1.3倍大)の面取り 切縁面と隣接面	実習	上顎第一大臼歯の展開図の咬合面観・頬側面観デッサンを描く。
6	上顎中切歯(1.3倍大)の面取り	実習	上顎第一大臼歯の展開図の咬合面観・頬側面観デッサンを描く。
7	上顎犬歯(天然歯大)の角柱～面取り 唇側面と近心面	実習	上顎犬歯(天然歯大)の角柱完成後、唇側面と近心面からの面取りをデモと一緒に実践し、早くできたら反復練習する。
8	上顎犬歯(天然歯大)の面取り 切縁面と隣接面	実習	上顎犬歯(天然歯大)の切縁面と隣接面からの面取りをデモと一緒に実践し、早くできたら反復練習する。
9	上顎犬歯(天然歯大)の面取り	実習	上顎犬歯(天然歯大)の面取りの手順を理解し、ステップ毎にチェックを受けながら実践し、早くできたら反復練習する。
10	上顎犬歯(天然歯大)の面取り	実習	上顎犬歯(天然歯大)の面取りの手順を理解し、ステップ毎にチェックを受けながら実践し、早くできたら反復練習する。
11	上顎犬歯(天然歯大)の面取り	実習	上顎犬歯(天然歯大)の面取りを反復練習し、上顎犬歯の形態的特徴を表現し、早くできたら反復練習する。
12	上顎第一大臼歯(天然歯大)の角柱準備	実習	次の課題である上顎第一大臼歯(天然歯大)の角柱を仕上げておくこと。早くできたら、上顎中切歯の面取りの試験に合格できるよう反復練習する。
13	上顎中切歯(1.3倍大)の面取りの復習	実習	上顎中切歯(1.3倍大)の面取りの手順を復習し、ステップ毎にチェックを受けながら確認し、早くできたら反復練習する。
14	上顎中切歯(1.3倍大)の面取り 実技試験	実習	上顎中切歯(1.3倍大)の面取りを復習(30分)し、60分間 試験形式で上顎中切歯(1.3倍大)の面取りを行う。
15	上顎第一大臼歯(天然歯大)の面取り 咬合面、頬側面	実習	上顎第一大臼歯(天然歯大)の咬合面と頬側面からの面取りをデモと一緒に実践し、早くできたら反復練習する。

科目名 (英)	歯型彫刻基礎Ⅱ Basic Training of Dental Carving Ⅱ	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	田村 睦
		授業形態	実習		有		
学科・コース	歯科技工士科Ⅱ部	時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
		単位	1	(コマ数)		曜日/時間	月～金/ 5・6限
講師紹介	歯科技工士として歯科大学附属病院、歯科技工所、歯科医院での臨床経験を有した教員が、臨床事例と関連づけて、歯型彫刻の手技を指導する。						
目的	歯をつくる歯科技工士にとって基礎となる歯型彫刻の反復練習を通じて、歯の形態的特徴を立体で表現できるようになる。						
科目概要	16の面取り、荒彫り、仕上げ彫りを理解し、16の形態的特徴を立体で表現する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・16の面取りの手順を理解する。 ・16の荒彫り(主溝と外形)の手順がわかり、16の形態的特徴を立体で表現できる。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、実技試験として「作品の評価」を70点、レポートの評価を30点として100点満点とする。提出日は最終授業日から7日後の16:45までとする。</p> <p><input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input checked="" type="checkbox"/> レポート</p>						
教科書	最新歯科技工士教本「口腔・顎顔面解剖学」(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	事前学習： シラバスを確認し、必要な道具類を準備して授業に臨むと良い。 動画を視聴し動作のイメージをつかむと良い。 事後学習： 毎日30分程度、自主練習することを推奨する。		
参考図書	別途、授業内で紹介する。						
特記事項	国家試験科目(実地試験)						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	16(天然歯大)の面取り 頬側面、隣接面	実習	16(天然歯大)の頬側面と隣接面からの面取りをデモと一緒に実践し、早くできたら反復練習する。
2	16(天然歯大)の面取り 咬合面～隣接面	実習	16(天然歯大)の咬合面、頬側面、隣接面からの面取りの手順を理解して、ステップ毎にチェックを受けながら実践し、早くできたら反復練習する。
3	16(天然歯大)の面取り 咬合面～隣接面	実習	16(天然歯大)の咬合面、頬側面、隣接面からの面取りの手順を理解して、ステップ毎にチェックを受けながら実践し、早くできたら反復練習する。
4	16(天然歯大)の面取り 咬頭差、主溝、4隅角	実習	16(天然歯大)の咬頭差と主溝、4隅角の面取りをデモと一緒に実践し、早くできたら反復練習する。
5	16(天然歯大)の面取り 4隅角、咬頭	実習	16(天然歯大)の4隅角、咬頭の面取りをデモと一緒に実践し、早くできたら反復練習する。
6	16(天然歯大)の面取り 咬頭差～咬頭	実習	16(天然歯大)の咬頭差～咬頭までの面取りの手順を理解して、ステップ毎にチェックを受けながら実践し、早くできたら反復練習する。
7	16(天然歯大)の荒彫り 主溝と外形	実習	16(天然歯大)の面取り模型を使って、荒彫りの手順を理解して、ステップ毎にチェックを受けながら実践し、早くできたら反復練習する。
8	16(天然歯大)の荒彫り 主溝と外形	実習	16(天然歯大)の荒彫りの手順を理解して、ステップ毎にチェックを受けながら実践し、早くできたら反復練習する。
9	16(天然歯大)の仕上げ彫り 主溝と外形	実習	16(天然歯大)の荒彫りの手順を理解して、ステップ毎にチェックを受けながら実践し、早くできたら反復練習する。
10	16(天然歯大)の仕上げ彫り 主溝と外形	実習	16(天然歯大)の荒彫りの手順を理解して、ステップ毎にチェックを受けながら実践し、早くできたら反復練習する。
11	16(天然歯大)の仕上げ彫り 主溝と外形	実習	16(天然歯大)の荒彫りの手順を理解して、ステップ毎にチェックを受けながら実践し、早くできたら反復練習する。
12	16(天然歯大)の仕上げ彫り 副溝と隆線	実習	16(天然歯大)の副溝と隆線の仕上げ彫りの手順を理解して、ステップ毎にチェックを受けながら実践し、早くできたら反復練習する。
13	16(天然歯大)の仕上げ彫り 副溝と隆線	実習	16(天然歯大)の副溝と隆線の仕上げ彫りの手順を理解して、ステップ毎にチェックを受けながら実践し、早くできたら反復練習する。
14	彫刻コンテスト 16	実習	学内コンテスト
15	彫刻コンテスト 16	実習	16(天然歯大)を角柱から面取り、荒彫り、仕上げ彫り完成までを目標に取り組み歯型彫刻し作品を提出する。

科目名 (英)	歯型彫刻基礎Ⅲ Basic Training of Dental Carving Ⅲ	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	田村 睦
		授業形態	実習		有		
学科・コース	歯科技工士科Ⅱ部	時間数	30	授業回数	15 (コマ数)	開講区分	前期
		単位	1			曜日/時間	月～金/ 5・6限
講師紹介	歯科技工士として歯科大学附属病院、歯科技工所、歯科医院での臨床経験を有した教員が、臨床事例と関連づけて、歯型彫刻の手法を指導する。						
目的	歯をつくる歯科技工士にとって基礎となる歯型彫刻の反復練習を通じて、歯の形態的特徴を立体で表現できるようになる。						
科目概要	46の面取り、荒彫り、仕上げ彫りを理解し、46の形態的特徴を立体で表現する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・46の面取りの手順を理解する。 ・46の荒彫り(主溝と外形)の手順がわかり、46の形態的特徴を立体で表現できる。 ・前期総括として11、13の面取り、16、46の荒彫りの彫刻試験に合格できる。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、実技試験として「作品の評価」を70点、レポートの評価を30点として100点満点とする。提出日は最終授業日から7日後の16:45までとする。 <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input checked="" type="checkbox"/> レポート</p>						
教科書	最新歯科技工士教本「口腔・顎顔面解剖学」(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	事前学習： シラバスを確認し、必要な道具類を準備して授業に臨むとよい。 動画を視聴し動作のイメージをつかむとよい。 事後学習： 毎日30分程度、自主的な練習に取り組むとよい。		
参考図書	別途、授業内で紹介する。						
特記事項	国家試験科目(実地試験)						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	46(天然歯大)の面取り 咬合面～隣接面	実習	46(天然歯大)の咬合面、頬側面、隣接面からの面取りをデモと一緒に実践し、早くできたら反復練習にする。
2	46(天然歯大)の面取り 咬合面～隣接面	実習	46(天然歯大)の咬合面、頬側面、隣接面からの面取りの手順を理解して、ステップ毎にチェックを受けながら実践し、早くできたら反復練習する。
3	46(天然歯大)の面取り 咬頭差、主溝、4隅角	実習	46(天然歯大)の咬頭差と主溝、4隅角の面取りをデモと一緒に実践し、早くできたら反復練習する。
4	46(天然歯大)の面取り 4隅角、咬頭	実習	46(天然歯大)の4隅角、咬頭の面取りをデモと一緒に実践し、早くできたら反復練習する。
5	46(天然歯大)の面取り 咬頭差～咬頭	実習	46(天然歯大)の咬頭差～咬頭までの面取りの手順を理解して、ステップ毎にチェックを受けながら実践し、早くできたら反復練習する。
6	46(天然歯大)の荒彫り 主溝と外形	実習	46(天然歯大)の面取り模型を使って、荒彫りの手順を理解して、ステップ毎にチェックを受けながら実践し、早くできたら反復練習する。
7	46(天然歯大)の荒彫り 主溝と外形	実習	46(天然歯大)の荒彫りの手順を理解して、ステップ毎にチェックを受けながら実践し、早くできたら反復練習する。
8	11(天然歯大)の面取り	実習	11(天然歯大)の面取りのステップチェックを受けながら実践し、早くできたら反復練習する。
9	11(天然歯大)の面取り	実習	11(天然歯大)の面取りを35分間 試験形式で実施後、アドバイスを受け修正を行い、11の形態的特徴を立体的に表現する。
10	13(天然歯大)の面取り	実習	13(天然歯大)の面取りのステップチェックを受けながら実践し、早くできたら反復練習する。
11	16(天然歯大)の面取り	実習	16(天然歯大)の面取りを35分間 試験形式で実施後、アドバイスを受け修正を行い、16の形態的特徴を立体的に表現する。
12	16(天然歯大)の仕上げ彫り 副溝と隆線	実習	16(天然歯大)の副溝と隆線の仕上げ彫りの手順を理解して、ステップ毎にチェックを受けながら実践し、早くできたら反復練習する。
13	実力確認 16(天然歯大)の荒彫り	実習	16(天然歯大)の荒彫りを80分間で実施。60点以上を合格とする。
14	実力確認 46(天然歯大)の荒彫り	実習	46(天然歯大)の荒彫りを80分間で実施。60点以上を合格とする。
15	実力確認 11、13(天然歯大)の面取り	実習	11、13(天然歯大)の面取りを各35分間で実施。60点以上を合格とする。

科目名 (英)	歯型彫刻基礎Ⅳ Basic Training of Dental Carving Ⅳ	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	田村 睦
		授業形態	実習		有		
学科・コース	歯科技工士科Ⅱ部	時間数	30	授業回数	15 (コマ数)	開講区分	後期
		単位	1			曜日/時間	月～金/ 5・6限
講師紹介	歯科技工士として歯科大学附属病院、歯科技工所、歯科医院での臨床経験を有した教員が、臨床事例と関連づけて、歯型彫刻の手技を指導する。						
目的	歯をつくる歯科技工士にとって基礎となる歯型彫刻の反復練習を通じて、歯の形態的特徴を立体的に表現できる。						
科目概要	11、26、36の面取り、荒彫り、仕上げ彫りの手順を理解し、反復練習を通じて、それぞれの形態的特徴を表現する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・11、26、36の歯種について、面取り～荒彫り～仕上げ彫りの手順を理解し、作品を完成することができる。 ・26、36の歯種について、角柱～面取り～荒彫りの手順を理解し、規定時間内に作品を完成させることができる。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は実技試験として提出された作品を100点満点で行う。初回授業のコマシラバスに評価の項目を示す。</p> <p><input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input type="checkbox"/> レポート</p>						
教科書	最新歯科技工士教本「口腔・顎顔面解剖学」(医歯薬出版)	事前事後 学習と その内容	事前学習： シラバスを確認し、必要な道具、模型を準備して授業に臨むこと。スマホの動画で動作のイメージをつかむとよい。				
参考図書	別途、授業内で紹介する。		事後学習： 30分程度でも毎日、自主的な練習に取り組むよう努力する。				
特記事項	国家試験科目(実地試験)						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	11(天然歯大)の面取り	実習	11(天然歯大)の面取りをステップ毎にチェックを受けながら完成させ、荒彫りに進む。
2	11(天然歯大)の面取り～荒彫り	実習	11(天然歯大)の面取りを35分間 試験形式で実施後、アドバイスを受け修正を行い荒彫りに進む。
3	11(天然歯大)の荒彫り	実習	11(天然歯大)の荒彫りをステップ毎にチェックを受けながら完成させ、仕上げ彫りに進む。
4	11(天然歯大)の仕上げ彫り 完成提出	実習	11(天然歯大)の仕上げ彫りをステップ毎にチェックを受けながら完成させる。
5	26(天然歯大)のデッサン～面取り	実習	26(天然歯大)の各面のデッサンをすることで、26の面取り手順を確認し、面取りをステップ毎にチェックを受けながら実践する。
6	26(天然歯大)の面取り～荒彫り	実習	26(天然歯大)の面取りをステップ毎にチェックを受けながら完成させ、荒彫りに進む。
7	26(天然歯大)の荒彫り	実習	26(天然歯大)の荒彫りをステップ毎にチェックを受けながら完成させ、仕上げ彫りに進む。
8	26(天然歯大)の荒彫り～仕上げ彫り 完成提出	実習	26(天然歯大)の仕上げ彫りをステップ毎にチェックを受けながら完成させる。
9	36(天然歯大)のデッサン～面取り	実習	36(天然歯大)の各面のデッサンをすることで、36の面取り手順を確認し、咬合面、頬側面、隣接面の面取りをステップ毎にチェックを受けながら実践する。
10	36(天然歯大)の面取り～荒彫り	実習	36(天然歯大)の面取りをステップ毎にチェックを受けながら完成させ、荒彫りに進む。
11	36(天然歯大)の荒彫り～仕上げ彫り	実習	36(天然歯大)の荒彫りをステップ毎にチェックを受けながら完成させ、仕上げ彫りに進む。
12	技工Ⅱ部2年との合同実習 26面取り	実習	2年生が見本模型を見ないで面取りするところを見学し、一年後の到達目標(見ないで彫る)を体感する。
13	36(天然歯大)の仕上げ彫り 完成提出	実習	36(天然歯大)の仕上げ彫りをステップ毎にチェックを受けながら完成させる。
14	実力確認 26(天然歯大)の荒彫り	実習	26(天然歯大)の荒彫りを70分間で実施。60点以上を合格とする。
15	実力確認 36(天然歯大)の荒彫り	実習	36(天然歯大)の荒彫りを70分間で実施。60点以上を合格とする。

科目名 (英)	顎口腔機能学基礎 Stomatognathic Function Science-Basic	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	田村 睦
		授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科技工士科Ⅱ部	時間数	15	授業回数 (コマ数)	8	開講区分	後期
		単位	1			曜日/時間	月～金/ 5・6限
講師紹介	歯科大学附属病院、歯科技工所、歯科医院での臨床経験があり、教員経験も長い歯科技工士教員が分りやすい講義を行う。						
目的	歯科技工物の製作に必要な、下顎運動に関する専門的知識を習得する。						
科目概要	歯科技工の業務に必要な下顎運動に関する基本的な知識を、講義やグループワークを交えて理解することができる。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な下顎位の説明をすることができる。 ・ポッセルの図形について、各点の名称及び名称に対応する運動路について説明することができる。 ・前方運動、側方運動時の下顎の動きについて、それらの特徴を説明することができる。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 筆記試験を100点満点として評価する。試験内容は、知識を確認する問題(空欄補充等)、理解を確認する問題(記述等)の両方を出題する。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート</p>						
教科書	最新歯科技工士教本「顎口腔学機能学」(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	事前学習： シラバスおよび教科内容を確認し、教科書を 音読することを推奨する。 事後学習： 前回の内容の確認テスト(穴埋め10問程度)に 合格(60%以上)できる復習をしておく。		
参考図書	別途、授業内で紹介する。						
特記事項	国家試験科目(学説試験)						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	顎口腔系について	講義	下顎運動の全体像を理解する上で必要となる、歯を取り巻いている組織や器官(顎口腔系と呼ぶ)について理解する。また、下顎運動の分析に必要な基準面を理解する。
2	下顎位	講義	歯科技工操作を行う上で重要な知識となる、下顎位について理解する。
3	下顎の限界運動	講義	下顎の限界運動について、ポッセルの図形を用いて理解する。
4	ポッセルの図形	講義	ポッセルの図形について、各基準面から下顎運動を観察し理解を深める。
5	前方運動	講義	下顎の基本運動の一つである前方運動について理解する。
6	側方運動	講義	下顎の基本運動の一つである側方運動について理解する。
7	機能運動	講義	下顎の機能運動(咀嚼・嚥下・発音)について理解する。
8	復習	講義	1～7回の授業で使用したプリント、実施した小テストを復習し、試験に備える。

科目名 (英)	顎口腔機能学実践 Training of Stomatognathic Function Science	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	田村 睦
		授業形態	実習		有	開講区分	
学科・コース	歯科技工士科Ⅱ部	時間数	30	授業回数 (コマ数)	15		曜日/時間
講師紹介	歯科大学附属病院、歯科技工所、歯科医院での臨床経験があり、教員経験も長い歯科技工士教員が分りやすい実習を行う。						
目的	フェイスボウトランスファー体験を通じて、半調節性咬合器の取り扱い方を習得する。						
科目概要	学生たちが患者役と歯科医師役に分かれ、患者役となった学生はフェイスボウトランスファーの体験を行う。フェイスボウトランスファーの数値を基に顎路角を調節した咬合器装着まで行う。歯科治療と技工操作の関連を体験した後は、その咬合器を用いてテンポラリークラウンの製作を行う。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> フェイスボウトランスファーの意義及び目的を説明することができる。 半調節性咬合器の使い方(上顎模型装着～顎路角の調節～アンテリアガイダンスの形成)を説明することができる。 テンポラリークラウンの製作方法(デュプリケート法、人工歯調整法)を理解し、実習作品を完成することができる。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。</p> <p>欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。</p> <p>実技試験として作品の提出を50点、レポートの評価を50点の100点満点で評価する。初回授業のコマシラバスにおいて評価の項目を示す。提出物の期限は別途指示する。</p> <p><input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input checked="" type="checkbox"/> レポート</p>						
教科書	オリジナルプリント			事前事後 学習と その内容	事前学習： シラバスを読み、授業テーマ・授業内容の確認する。 事後学習： 実習プリントを活用し、前回の実習内容を確認する。		
参考図書	別途、授業内で紹介する。						
特記事項	デモンストレーション及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	フェイスボウ採得	実習	口腔内模型を使用し、学生相互でフェイスボウ採得を実施する。フェイスボウの目的、基準点、採得時の注意点をプリントで確認し、生体の正中と歯の正中のズレを記録する。
2	半調節性咬合器の使い方 上顎模型の装着	実習	咬合器をゼロセッティングし、フェイスボウトランスファーにより上顎模型を装着する。
3	平行模型(下顎模型)の調整	実習	平行模型の意義を理解し、下顎の口腔内模型を平行模型に調整する。
4	下顎模型の装着・咬合接点	実習	装着が完了した上顎模型に下顎模型を咬頭嵌合位で固定し装着する。また、咬頭嵌合位でのチェックバイトを採得し、咬合接点を実習レポートに記録する。
5	前方チェックバイト採得～顎路角の調節	実習	切端咬合位で前方チェックバイトを採得し半調節性咬合器の矢状顎路角を調節する。側方顎路角は矢状顎路角から算出する。
6	アンテリアガイダンスの形成	実習	トレーゼンを使用し、上下口腔内模型の有する個々の顎路角に調和するアンテリアガイダンスを形成する。
7	半調節性咬合器の使い方 計測・レポート完成	実習	ボンウィル三角、切歯指導標と切歯点の距離をそれぞれ計測し、平均値咬合器との違いを理解する。実践した半調節性咬合器の使い方についてレポートを完成させる。
8	テンポラリークラウンの製作 臼歯部 複印象	実習	半調節性咬合器に装着、調節された自分の口腔内模型を使用して、テンポラリークラウンを製作する。下顎第一大臼歯の複印象を採得し、デュプリケート法を用いる。
9	テンポラリークラウンの製作 臼歯部 支台歯形成	実習	テンポラリークラウンの製作における支台歯形成の注意点を理解し、下顎第一大臼歯の支台歯形成をデモと一緒にを行い、実習指導教員の助言を受ける。
10	テンポラリークラウンの製作 臼歯部 レジン填入	実習	レジン填入前処理をデモと一緒にを行い、実習指導教員の助言を受ける。複印象に歯冠色の常温重合レジンを填入を行う。
11	テンポラリークラウンの製作 前歯部 支台歯形成	実習	上顎中切歯のテンポラリークラウンを人工歯調整法により製作する。模型を用いて支台歯形成をデモと一緒にを行う。
12	テンポラリークラウンの製作 前歯部 人工歯調整	実習	人工歯調整時の注意点を理解し、人工歯を削除する。テンポラリークラウンは支台歯形成した模型に合うように調整する。
13	テンポラリークラウンの製作 前歯部 レジン操作～形態修正	実習	人工歯調整のチェックを実習指導教員から受けた後、デモと一緒にレジン操作前処理を行う。レジン操作の注意点を理解し、実施後、形態修正を行う。
14	テンポラリークラウンの製作 前歯部・臼歯部 形態修正	実習	形態修正の注意点を理解した後に製作する。製作においては、実習指導教員のチェックを受ける。
15	テンポラリークラウンの製作 前歯部・臼歯部 研磨・完成	実習	レジンの研磨の手順、注意点を理解した後に製作する。製作においては、実習指導教員のチェックを受け完成させる。

科目名 (英)	歯科理工学基礎 I Dental Materials Science-Basic I	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	片岡 有
		授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科技工士科Ⅱ部	時間数	15	授業回数 (コマ数)	8	開講区分	前期
		単位	1			曜日/時間	月～金/ 5・6限
講師紹介	歯科医師としての臨床経験を有し、大学附属病院で材料の研究をしている講師が、材料の正しい知識と理論に基づいて、事例を交えながら授業を行う。						
目的	口腔内で人工臓器として機能を果たす装置を製作するために、石膏及び金属成形の基本的知識及び材料に関連する歯科技工の製作方法の知識を習得する。						
科目概要	歯科材料の特徴および歯科医療現場で多用される材料を取り扱う。教科書の該当部分は以下の通りである。 第1章「歯科技工と歯科理工学」、第2章「歯科材料の性質(第1項 物質の構造)」、第3章「印象と模型製作」、第4章「原型製作」、第7章「金属成形(第7項-1 鑄造理論)」						
到達目標	①歯科臨床現場で使用する材料の基本的知識(種類、組成、性質)および取り扱いについて説明することができる。 (金属材料・セラミック系材料・レジン系材料の概要、印象材、模型材、原型材料) ②歯科技工による装置製作の過程(ロストワックス精密鑄造法)を説明することができる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 筆記試験を100点満点として評価する。試験内容は、知識を確認する問題(空欄補充等)、理解を確認する問題(記述等)の両方を出題する。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	最新歯科技工士教本 歯科理工学第1版 全国歯科技工士教育協議会 編集(医歯薬出版)	事前事後 学習と その内容	事前学習: シラバスを確認し、教科書の該当ページを熟読し、キーワードとなる語句をチェックすることを推奨する。				
参考図書	なし		事後学習: 小テストについて復習することを推奨する。				
特記事項	【プリント(補助教材)】 随時						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	歯科技工と歯科理工学(第1章) 歯科材料の分類と特徴(第2章-1)	講義	歯科理工学の意義と目的(歯科理工学の意味、歯科理工学の目的)、歯科材料の果たす役割、歯科用装置の製作過程、歯科技工の安全性と環境、物質の構造(原子間結合、材料の種類と性質)について理解する。
2	印象と模型製作①(第3章)	講義	印象材(印象材の分類、印象材の種類)について理解する。
3	印象と模型製作②(第3章)	講義	印象材(印象材の一般的性質、印象材と模型材との関係)について理解する。
4	印象と模型製作③(第3章)	講義	模型材(石膏の種類、石膏の一般的性質)について理解する。
5	金属成形(第1章、第7章-7-1) (ロストワックス精密鑄造法)	講義	鑄造(鑄造理論)について理解する。
6	原型製作(第4章)	講義	原型材料(歯科用ワックスの種類と用途、歯科用ワックスの組成、歯科用ワックスの性質、ワックス以外の原型材料)について理解する。
7	定期試験に向けて復習	講義	第1回～第6回の講義について問題演習を行い、解説講義を行う。
8	定期試験と解説講義	講義	第1回～第6回の講義について試験を行う。 ・試験終了後は自己採点を行い理解度を確認する。

科目名 (英)	歯科理工学基礎Ⅱ Dental Materials Science-BasicⅡ	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	片岡 有
		授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科技工士科Ⅱ部	時間数	15	授業回数 (コマ数)	8	開講区分	前期
		単位	1			曜日/時間	月～金/ 5・6限
講師紹介	歯科医師としての臨床経験を有し、大学附属病院で材料の研究をしている講師が、材料の正しい知識と理論に基づいて、事例を交えながら授業を行う。						
目的	口腔内で人工臓器として機能を果たす装置を製作するために、レジン形成及びセラミック形成の基本的知識及び材料に関連する歯科技工の製作方法の知識を習得する。						
科目概要	歯科材料の特徴および歯科医療現場で多用される材料を取り扱う。教科書の該当部分は以下の通りである。 第2章「歯科材料の性質」、第5章「レジン成形」、第6章「セラミック成形(第1項歯科用セラミックス)」						
到達目標	①歯科臨床現場で使用する材料の基本的知識(種類、組成、性質)および取り扱いについて説明することができる。 ②歯科技工による装置製作の過程(レジン成形法)を説明することができる。 ③歯科材料の物性評価法を説明することができる。(物質の構造、機械的性質、物理的性質、化学的性質、生物学的性質)						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 筆記試験を100点満点として評価する。試験内容は、知識を確認する問題(空欄補充等)、理解を確認する問題(記述等)の両方を出題する。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	最新歯科技工士教本 歯科理工学第1版 全国歯科技工士教育協議会 編集(医歯薬出版)	事前事後 学習と その内容	事前学習: シラバスを確認し、教科書の該当ページを熟読し、キーワードとなる語句をチェックすることを推奨する。				
参考図書	なし		事後学習: 小テストについて復習することを推奨する。				
特記事項	【プリント(補助教材)】 随時						

授業計画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	レジン成形(第5章)	講義	義歯床用レジン(義歯床用レジン、加熱重合レジン)について理解する。
2	レジン成形(第5章)	講義	義歯床用レジン(常温重合レジン、その他の義歯床用レジン、填入・成形法)について理解する。
3	セラミック成形(概論)(第6章-1)	講義	歯冠用セラミックスについて理解する。
4	歯科材料の性質①(第2章)	講義	機械的性質(応力とひずみ、弾性変形と塑性変形、応力-ひずみ曲線、展性と延性、曲げ強さ、疲労限、衝撃強さ、クリープ、粘弾性、硬さ)について理解する。
5	歯科材料の性質②(第2章)	講義	物理的性質(密度と比重、熱膨張係数、熱伝導率、熱可塑性、比熱、蒸散熱と融解熱、光の屈折と反射)について理解する。
6	歯科材料の性質③(第2章)	講義	化学的性質(腐食と変色、溶解性、吸水性、接着性)、生物学的性質(生体安全性の評価、生体反応)について理解する。
7	定期試験に向けて復習	講義	第1回～第6回の講義について問題演習を行い、解説講義を行う。
8	定期試験と解説講義	講義	第1回～第6回の講義について試験を行う。 ・試験終了後は自己採点を行い理解度を確認する。

科目名 (英)	歯科理工学基礎Ⅲ Dental Materials Science-BasicⅢ	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	片岡 有
		授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科技工士科Ⅱ部	時間数	15	授業回数 (コマ数)	8	開講区分	後期
		単位	1			曜日/時間	月～金/ 5・6限
講師紹介	歯科医師としての臨床経験を有し、大学附属病院で材料の研究をしている講師が、材料の正しい知識と理論に基づいて、事例を交えながら授業を行う。						
目的	口腔内で人工臓器として機能を果たす装置を製作するために、金属成形の基本的知識及び材料に関連する歯科技工の製作方法の知識を習得する。						
科目概要	歯科材料の特徴および歯科医療現場で多用される材料を取り扱う。教科書の該当部分は以下の通りである。 第7章「金属成形」						
到達目標	①歯科臨床現場で使用する材料の基本的知識(種類、組成、性質)および取り扱いについて説明することができる。 ②歯科技工による装置製作の過程(金属成形法、埋没材、鑄造欠陥等)を説明することができる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 筆記試験を100点満点として評価する。試験内容は、知識を確認する問題(空欄補充等)、理解を確認する問題(記述等)の両方を出題する。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	最新歯科技工士教本 歯科理工学第1版 全国歯科技工士教育協議会 編集(医歯薬出版)	事前事後 学習と その内容	事前学習: シラバスを確認し、教科書の該当ページを熟読し、キーワードとなる語句をチェックすることを推奨する。				
参考図書	なし		事後学習: 小テストについて復習することを推奨する。				
特記事項	【プリント(補助教材)】 随時						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	金属成形①(第7章)	講義	歯科用合金(歯科用合金の所要性質)、金合金、銀合金について理解する。
2	金属成形②(第7章)	講義	コバルトクロム合金、チタンおよびチタン合金、ステンレス鋼、合金の熱処理について理解する。
3	金属成形③(第7章)	講義	鑄造(鑄造理論、埋没材)について理解する。
4	金属成形④(第7章)	講義	鑄造(埋没操作、鑄型の加熱、鑄造操作、鑄造欠陥、適合不良)について理解する。
5	金属成形⑤(第7章)	講義	金属の加工(金属の塑性加工と硬化、歯科用CAD/CAM)について理解する。
6	金属成形⑥(第7章)	講義	金属の接合(種類、ろう付け、ろう付け法、溶接、鋳接)について理解する。
7	定期試験に向けて復習	講義	第1回～第6回の講義について問題演習を行い、解説講義を行う。
8	定期試験と解説講義	講義	第1回～第6回の講義について試験を行う。 ・試験終了後は自己採点を行い理解度を確認を行う。

科目名	歯科材料加工実習 I	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	小島 三知長
		授業形態	実習		有		
(英)	Practice of Dental Material Processing I	時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
学科・コース	歯科技工士科 II 部	単位	1	(コマ数)		曜日/時間	月～金/ 5・6限
講師紹介	歯科大学附属病院、歯科技工所(自費技工専門)、歯科診療所技工室の実務経験のある教員が、その経験を活かして、受講生のみなさんが歯科技工に必要な基本的な知識・技術を理解できるように、デモンストレーションを交えた授業をする。						
目的	歯科技工士が使用する様々な歯科材料及び機器の取り扱い方法について、実際の作業を通じて習得する。						
科目概要	様々な実習体験を通して、歯科技工の基本操作について理解を深めること。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 石膏操作に関する基本事項(石膏の種類、混水比、使用機器、操作上の注意点など)を理解し、実習をすすめることができる。 ワックス操作に関する基本事項(ワックスの種類、用途、使用機器、操作上の注意点など)を理解し、実習をすすめることができる。 鑄造操作、レジン操作に関する基本事項(使用材料、使用機器、操作上の注意点など)を理解し、実習をすすめることができる。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。</p> <p>評価は、実技試験として「作品提出」80点、レポートの評価を20点の100点満点で行う。初回授業のコマシラバスにて評価の項目を示す。</p> <p><input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input checked="" type="checkbox"/> レポート</p>						
教科書	入学前から始める！歯科技工の基礎知識 (滋慶教育科学研究 所)配布資料「導入教育 実習プリントNo.1～4」(オリジナル)			事前事後 学習と その内容	事前学習：シラバスを確認し、実習に必要な器具・器材を 準備して授業に臨むこと 事後学習：取り組んだ実習は、指定教科書も併せて その内容を確認すること。		
参考図書	最新歯科技工士教本「歯冠修復技工学」(医歯薬出版) 最新歯科技工士教本「有床義歯技工学」(医歯薬出版)						
特記事項	実習作品、レポートは最終授業の15日後、18時まで提出すること。欠席、失敗等で進行が遅れる場合は担当者の指示に従うこと。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	石膏注入 〔石膏棒・402UL〕	実習	石膏の正しい取り扱い方法及び注意点について理解する。 石膏棒の製作方法及び注意点について理解する。
2	石膏注入 〔66T-22(U)、Cr. T〕	実習	石膏の正しい取り扱い方法及び注意点について理解する。 機械練和による石膏注入方法及び注意点について理解する。
3	口腔内印象採得～石膏注入 合同実習〔DT II 3年〕	実習	患者体験を通して、間接法の作業工程を理解する。 印象採得後のアルジネート印象材の取り扱い方法を理解する。
4	口腔内印象採得～石膏注入 合同実習〔DT II 3年〕	実習	患者体験を通して、間接法の作業工程を理解する。 石膏をアルジネート印象材への注入する際の注意点を理解する。
5	ワックス操作	実習	ワックス操作に必要な器具、器材を理解する。 ワックスの正しい取り扱い方法、注意点について理解する。
6	個人トレー製作	実習	個人トレーの使用目的を理解する。 常温重合レジン(トレーレジン)の取り扱い方法及び注意点を理解する。
7	口蓋部印象採得～石膏注入 ワックス操作〔鑄造用パターン製作〕	実習	シリコーンゴム印象材の取り扱い方法及び注意点を理解する。 ワックスの正しい取り扱い方法及び注意点を理解する。
8	口蓋部印象採得～石膏注入 ワックス操作〔鑄造用パターン製作〕	実習	シリコーンゴム印象材の取り扱い方法及び注意点を理解する。 ワックスの正しい取り扱い方法及び注意点を理解する。
9	スプルー植立～埋没	実習	スプルー植立の方法及び注意点を理解する。 スプルー線の種類及び植立の原則について理解する。
10	埋没 完了	実習	埋没の方法及び注意点を理解する。 埋没材の取り扱い方法を理解する。
11	口腔内模型 観察、調整	実習	印象採得時に生ずる気泡及び石膏注入時に生ずる気泡の違いを理解する。 トリマーの取り扱い方法を理解する。
12	口蓋板 ワックスアップ	実習	パラフィンワックス(板状)の軟化方法を理解する。 全部床義歯の床後縁の決定方法及び必要な床の厚みについて理解する。
13	口蓋板 フラスコ埋没 デッサン〔前歯部口腔内〕	実習	全部床義歯におけるフラスコ埋没の技工術式を理解する。 一次埋没後に生じるアンダーカットについて、生じる理由を理解する。
14	口蓋板 フラスコ埋没 完了 デッサン〔前歯部口腔内〕	実習	全部床義歯におけるフラスコ埋没の技工術式を理解する。 フラスコ埋没に必要な使用器具、器材、取り扱い方法を理解する。
15	鑄造操作 & 口蓋板 流蠟	実習	鑄造の方法及びその注意点を理解する。 流蠟の方法及びその注意点を理解する。

科目名 (英)	歯科材料加工実習Ⅱ Practice of Dental Material ProcessingⅡ	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	小島 三知長
		授業形態	実習		有		
学科・コース	歯科理工科Ⅱ部	時間数	30	授業回数 (コマ数)	15	開講区分	前期
		単位	1			曜日/時間	月～金/ 5・6限
講師紹介	歯科大学附属病院、歯科技工所(自費技工専門)、歯科診療所技工室の実務経験のある教員が、その経験を活かして、受講生のみなさんが歯科技工に必要な基本的な知識・技術を理解できるように、デモンストレーションを交えた授業をする。						
目的	模型製作・メタル研磨・口蓋板の製作を通して、石膏・ワックス・レジン・金属の取扱い方について、実際の作業を通じて習得する。						
科目概要	様々な実習体験や口蓋板の装着体験を通して、歯科技工の基本操作について理解を深めるとともに、今後の学習課題設定することができる。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・鑄造操作、レジン操作に関する基本事項(使用材料、使用機器、操作上の注意点など)を理解し、実習をすすめることができる。 ・模型製作に関する基本事項(使用材料、使用機器、製作の注意点など)を理解し、実習をすすめることができる。 ・咬合器装着に関する基本事項(使用材料、使用機器、取り扱いの注意点など)を理解し、実習をすすめることができる。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、実技試験として「作品の提出」を80点、レポートの評価を20点の100点満点とする。初回授業のコマシラバスにて評価の項目を示す。 <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input checked="" type="checkbox"/> レポート</p>						
教科書	入学前から始める！歯科技工の基礎知識 (滋慶教育科学研究 所)配布資料「導入教育 実習プリントNo.1～4」(オリジナル)			事前事後 学習と その内容	事前学習：シラバスを確認し、実習に必要な器具・器材を準備して授業に臨むこと 事後学習：取り組んだ実習は、指定教科書も併せてその内容を確認すること。		
参考図書	最新歯科技工士教本「歯冠修復技工学」(医歯薬出版) 最新歯科技工士教本「有床義歯技工学」(医歯薬出版)						
特記事項	実習作品、レポートは最終授業の15日後、18時までに提出すること。 欠席、失敗等で進捗が遅れる場合は担当者の指示をあおぐこと。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	鑄造操作&口蓋板 流蝕	実習	鑄造の方法及びその注意点について理解する。 流蝕の方法及びその注意点について理解する。
2	メタル 研磨(粗研磨) 口蓋板 レジン填入	実習	金属研磨(粗研磨)の方法及び注意点について理解する。 レジン填入に必要な使用器具及び器材の取り扱い方法について理解する。
3	メタル 研磨(仕上げ研磨) 口蓋板 レジン填入	実習	金属研磨(仕上げ研磨)の方法及び注意点について理解する。 レジン填入に必要な使用器具及び器材の取り扱い方法について理解する。
4	口蓋板 掘り出し 歯型可撤式模型の製作	実習	レジン重合後～掘り出しまでの技工術式について確認する。 歯型可撤式模型の製作に必要な使用器具及び器材の取り扱い方法について理解する。
5	歯型可撤式模型の製作	実習	チャンネルレー法による歯型可撤式模型の製作法を理解する。 ダウエルピン法による歯型可撤式模型の製作法を理解する。
6	口蓋板 バリ取り～形態修正～ 歯型可撤式模型の製作	実習	レジンの切削、研磨の目的および基本操作を理解する。 歯型可撤式模型の製作法及び注意点を理解する。
7	歯型可撤式模型の製作 口蓋板 形態修正～粗研磨	実習	歯型可撤式模型の製作法及びその注意点を理解する。 レジン研磨(粗研磨)の方法及びその注意点を理解する。
8	口蓋板 研磨 完成	実習	レジン研磨(中研磨)の方法及び注意点を理解する。 レジン研磨(仕上げ研磨)の方法及びその注意点を理解する。
9	分割～トリミング 〔歯型可撤式模型〕	実習	歯型トリミングの目的を理解する。 分割、トリミングの方法及びその注意点を理解する。
10	メタル 研磨 完成	実習	金属研磨に必要な使用器具及び器材の取り扱い方法を理解する。 金属研磨の方法及びその注意点を理解する。
11	歯型可撤式模型 完成	実習	歯型可撤式模型の製作に必要な使用器具、器材の取り扱い方法を理解する。 歯型可撤式模型の製作法及びその注意点を理解する。
12	咬合器装着〔66T-22(L)〕	実習	咬合器(ハンディーⅡA)の正しい取扱い方及びその注意点を確認する。 下顎模型の正しい装着方法を理解する。
13	咬合器装着〔66T-22(L)〕	実習	咬合器(スペイシー)の正しい取扱い方及び注意点を確認する。 下顎模型の正しい装着方法を理解する。
14	咬合器装着〔66T-22(U)〕	実習	咬合器(スペイシー)の正しい取扱い方及び注意点を確認する。 上顎模型の正しい装着方法を理解する。
15	咬合器装着〔66T-22(U)〕	実習	咬合器(スペイシー)の正しい取扱い方及び注意点を確認する。 上顎模型の正しい装着方法を理解する。

科目名 (英)	部分床義歯技工学 I	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	鵜飼 芳行
	Partial DentureProsthetics I	授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科技工士科Ⅱ部	時間数	15	授業回数	8	開講区分	後期
		単位	1	(コマ数)		曜日/時間	月～金/ 5・6限
講師紹介	歯科大学附属病院勤務の実務経験を持つ教員が、その経験を活かして有床義歯に必要な知識や理論について講義を行う。						
目的	人工臓器である部分床義歯(部分入れ歯)の製作をする上で、必要な基礎知識を理解する。						
科目概要	部分床義歯製作の工程(クラスプ製作～埋没まで)について、実際の工程に対応させながら、基礎知識をよりの確に理解する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・義歯製作の概略を説明することができる。 ・模型を咬合器に装着する際の、咬合器に対する模型の位置について説明することができる。 ・サベイング、クラスプ製作、人工歯排列、歯肉形成及びレジン流し込みまでの工程を説明することができる。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。</p> <p>評価は、筆記試験で行う。試験内容は、知識を確認する問題(空欄補充等)、理解を確認する問題(記述等)の両方を出題する。</p> <p>■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート</p>						
教科書	最新歯科技工士教本「有床義歯技工学」(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	事前学習:教科書の該当ページをあらかじめ読んでおくことを推奨する。 事後学習:小テストに合格できるように授業の復習を行うことを推奨する。		
参考図書	なし						
特記事項	授業に必要なプリントは随時配布する。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	初めての義歯製作・歯が抜けると・義歯の構造	講義	口蓋板の製作を振り返りながら、義歯製作の手順を理解する。歯が抜けるとどうなるのかを学び、そこに入れる義歯の構造を理解する。
2	サベイングの考え方・咬合器①	講義	模型とサベイヤーを用いて、アンダーカット操作及びサベイング操作に必要な理論を理解する。また、咬合器を用いて、咬合器の働きや動きを理解する。
3	クラスプの概要	講義	クラスプの所要条件及びクラスプ各部の名称と働きについて理解する。
4	クラスプの特色	講義	クラスプに関する重要語句、直接・間接・補助維持装置について理解する。
5	人工歯の概要	講義	患者に適した人工歯を選択する上で必要となる、人工歯に用いられる様々な材料及び、人工歯の臼歯部形態と天然歯の形態との相違点を理解する。
6	人工歯排列と歯肉形成	講義	臼歯部における様々な咬合彎曲について確認し、どのように人工歯排列をすればよいかを理解する。患者の口腔内状況に応じた歯肉形成のために必要な、臼歯部における基本的な歯肉形成法を理解する。
7	シリコンコア法による埋没	講義	シリコンコア法を用いた、ワックスからレジンに置き換える工程を理解する。
8	復習	講義	部分床義歯技工学 I 第1回～第7回までの要点をまとめ、理解度を深める。

科目名 (英)	部分床義歯技工学Ⅱ Partial DentureProstheticsⅡ	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	鵜飼 芳行
		授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科技工士科Ⅱ部	時間数	15	授業回数	8	開講区分	後期
		単位	1	(コマ数)		曜日/時間	月～金/ 5・6限
講師紹介	歯科大学附属病院勤務の実務経験を持つ教員が、その経験を活かして有床義歯に必要な知識や理論について講義を行う。						
目的	人工臓器である部分床義歯(部分入れ歯)の製作する上で、必要な基礎知識を理解する。						
科目概要	部分床義歯製作の工程(埋没～完成)および連結子について、実際の工程に対応させながら、基礎知識をよりの確に理解する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 各クラスプについて名称及びその特徴を説明することができる。 各大連結子について、その名称及びその特徴を説明することができる。 フラスコ埋没、流蠟、填入、重合、削合、研磨、までの工程を説明することができる。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。</p> <p>筆記試験を100点満点として評価する。試験内容は、知識を確認する問題(空欄補充等)、理解を確認する問題(記述等)の両方を出題する。</p> <p>■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート</p>						
教科書	最新歯科技工士教本「有床義歯技工学」(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	事前学習:教科書の該当ページをあらかじめ読んでおくことを推奨する。 事後学習:小テストに合格できるように授業の復習を行うことを推奨する。		
参考図書	なし						
特記事項	授業に必要なプリントは随時配布する。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	クラスプの種類	講義	線鉤・鑄造鉤、製作手順、エーカーズ鉤について理解する。
2	埋没・流蠟～填入	講義	部分床義歯のフラスコ埋没の方法、利点・欠点について理解する。 流蠟操作、各填入法について理解する。
3	削合①～研磨	講義	削合の概略について理解する。 レジン研磨の手順、要点について理解する。
4	クラスプの種類	講義	各クラスプ(環状鉤)について名称、特徴について理解する。 各クラスプ(パークラスプ他)について名称、特徴について理解する。
5	その他の支台装置	講義	レストの形態、目的、種類について理解する。 アタッチメントについて理解する。
6	上顎の連結子	講義	連結子全般について理解する。 上顎大連結子について理解する。
7	下顎の連結子	講義	下顎大連結子について理解する。
8	復習	講義	部分床義歯技工学Ⅱ第1回～第7回までの要点をまとめ、理解度を深める。

科目名 (英)	部分床義歯技工学Ⅲ Partial DentureProstheticsⅢ	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	鵜飼 芳行
		授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科技工士科Ⅱ部	時間数	15	授業回数	8	開講区分	後期
		単位	1	(コマ数)		曜日/時間	月～金/ 5・6限
講師紹介	歯科大学附属病院勤務の実務経験を持つ教員が、その経験を活かして有床義歯に必要な知識や理論について講義を行う。						
目的	部分床義歯(部分入れ歯)の製作に関する基礎知識から応用までの理論と、複雑な義歯設計に必要な理論を習得する。						
科目概要	部分床義歯製作に必要な付帯的な知識を理解する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 支台装置についてその仕組みや特徴を説明することができる。 義歯製作に必要な事柄を説明することができる。 治療室で行われる印象採得から模型製作までの過程を説明することができる。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 筆記試験を100点満点として評価する。試験内容は、知識を確認する問題(空欄補充等)、理解を確認する問題(記述等)の両方を出題する。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート</p>						
教科書	最新歯科技工士教本「有床義歯技工学」(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	事前学習:教科書の該当ページをあらかじめ読んでおくことを推奨する。 事後学習:小テストに合格できるように授業の復習を行うことを推奨する。		
参考図書	なし						
特記事項	授業に必要なプリントは随時配布する。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	特別講義 支台装置 (クラスプ、アタッチメント、テレスコープ)	講義	担当:芝 燐彦(昭和大学歯学部名誉教授) クラスプ、アタッチメント、テレスコープの構造、特徴について理解する。 実際の装着状態、術後経過も画像を確認し理解する。
2	重合の失敗と前歯人工歯	講義	重合の失敗とその原因を知り、失敗しないための方法を理解する。 前歯部人工歯の形態を理解する。
3	義歯床の概要	講義	義歯床の各部の名称、床縁の形態、残存歯との位置関係について知り、理想的な義歯床形態を理解する。
4	ケネディの分類	講義	ケネディの分類法の各級について理解する。
5	固定性ブリッジと部分床義歯の比較	講義	固定性ブリッジと部分床義歯を比較して、その特徴を理解する。
6	部分床義歯の設計	講義	口腔内での義歯の動きを知り、その動きを抑えるような設計を理解する。
7	印象採得、模型製作	講義	有床義歯における印象採得およびボクシング、模型製作について学びその手順、方法を理解する。
8	復習	講義	部分床義歯技工学Ⅲ第1回～第7回までの要点をまとめ、理解度を深める。

科目名 (英)	部分床義歯基礎実習 I Basic Training of Partial Denture Techniques I	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	小島 三知長
		授業形態	実習		有		
学科・コース	歯科技工士科 II 部	時間数	30	授業回数	15 (コマ数)	開講区分	後期
		単位	1			曜日/時間	月～金/ 5・6限
講師紹介	歯科大学附属病院、歯科技工所(自費技工専門)、歯科診療所技工室の実務経験のある教員がその経験を活かして、部分床義歯製作に必要な理論と手技について指導する。						
目的	クラスプの設計をするために、部分床義歯の製作に不可欠なサベーパーを用いた手順を習得する。						
科目概要	クラスプトレーニングを通して、サベーパーの使用方法やクラスプの製作手順の理解を深める。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・サベーパーの使用目的、使用方法を理解し、実習をすすめることができる。 ・線鉤、鑄造鉤の設計を理解し、実習をすすめることができる。 ・線鉤、鑄造鉤の製作方法、製作上の注意点を理解し、実習をすすめることができる。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、実技試験については、「試験」と「作品の提出」を各40点、レポートの評価を20点の100点満点とする。初回授業のコマシラスにて評価の項目を示す。 <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input checked="" type="checkbox"/> レポート</p>						
教科書	最新歯科技工士教本「有床義歯技工学」(医歯薬出版) 配布資料 実習プリント(オリジナル)			事前事後 学習と その内容	事前学習： シラバスを確認し、実習に必要な器具・器材を準備して授業に臨むこと 事後学習： 取り組んだ実習内容は、指定教科書も併せて学習すること		
参考図書	最新歯科技工士教本「歯科技工実習」(医歯薬出版)						
特記事項	実習作品、レポートは最終授業の15日後、18時までに提出すること。欠席、失敗等で進捗が遅れる場合は担当者の指示をおおぐこと。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	咬合器装着[66T-31(U)] 設計[クラスプT]	実習	咬合器の正しい取扱い方法、注意点について理解する。 線鉤、鑄造鉤の設計について理解する。
2	スプリットキャスト形成[66T-31(U)] 設計[クラスプT]	実習	スプリットキャストの形成方法、注意点について理解する。 線鉤、鑄造鉤の設計について理解する。
3	咬合器装着[WPD-1(U)] 前準備～複印象[クラスプT]	実習	咬合器の正しい取扱い方法、注意点について理解する。 鑄造鉤の設～複印象までの方法、注意点について理解する。
4	耐火模型製作[クラスプT]	実習	耐火模型の製作方法、注意点について理解する。
5	サベイング～設計 [66T-31(U)]	実習	サベーパーの使用方法、使用上の注意点について理解する。 サベイングの基本操作、注意点について理解する。
6	ブロックアウト(設計完了) [66T-31(U)]	実習	サベーパーの使用方法、使用上の注意点について理解する。 ブロックアウトの基本操作、注意点について理解する。
7	複印象前準備～複印象 [66T-31(U)]	実習	鑄造鉤の作業工程、注意点について理解する。 複印象前準備～複印象までの方法、注意点について理解する。
8	耐火模型製作[66T-31(U)] ワックスバス～設計転記[クラスプT]	実習	上顎、下顎口腔内模型の歯列をデッサンし、特に自分の歯列について、形のタイプを理解する。
9	鑄造鉤ワックスアップ [クラスプT]	実習	鑄造鉤の作業工程、注意点について理解する。 鑄造鉤ワックスアップの方法、注意点について理解する。
10	ワックスバス[66T-31(U)] 線鉤屈曲[クラスプT]	実習	ワックスバスの方法、注意点について理解する。 線鉤屈曲の方法、注意点について理解する。
11	設計転記[66T-31(U)] 線鉤屈曲[クラスプT]	実習	鑄造鉤の設計、設計転記までの方法、注意点について理解する。 線鉤屈曲の方法、注意点について理解する。
12	鑄造レストの製作 [クラスプT]	実習	鑄造レストの製作方法、注意点について理解する。
13	確認①:片側欠損模型 [サベイング～ブロックアウト]	実習	鑄造鉤の作業工程、注意点について理解する。 サベイング～ブロックアウトの方法、注意点について理解する。
14	確認②:片側欠損模型 [複印象前準備～]	実習	鑄造鉤の作業工程、注意点について理解する。 複印象前準備の方法、注意点について理解する。
15	確認③:片側欠損模型 [耐火模型 完成]	実習	鑄造鉤の作業工程、注意点について理解する。 耐火模型製作の方法、注意点について理解する。

科目名 (英)	部分床義歯基礎実習Ⅱ Basic Training of Partial Denture Techniques II	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	小島 三知長
		授業形態	実習		有		
		時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
学科・コース	歯科技工士科Ⅱ部	単位	1	(コマ数)			曜日/時間
講師紹介	歯科大学附属病院、歯科技工所(自費技工専門)、歯科診療所技工室の実務経験のある教員がその経験を活かして、部分床義歯製作に必要な理論と手技について指導する。						
目的	パラタルバーや鑄造鉤の製作を通して、維持装置の基本的な知識や技術を習得する。						
科目概要	維持装置の製作について基本的な知識や技術の理解を深めるために、パラタルバーや鑄造鉤の製作をする。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・大連結子の役割、種類、製作方法を理解し、実習をすすめることができる。 ・鑄造鉤の製作方法、製作上の注意点を理解し、実習をすすめることができる。 ・金銀パラジウム合金の鑄造方法、注意点、酸処理の目的、方法を理解し、実習をすすめることができる。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、実技試験については、「試験」と「作品の提出」を各40点、レポートの評価を20点の100点満点とする。初回授業のコマシラバスにて評価の項目を示す。 <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input checked="" type="checkbox"/> レポート</p>						
教科書	最新歯科技工士教本「有床義歯技工学」(医歯薬出版) 配布資料 実習プリント(オリジナル)			事前事後 学習と その内容	事前学習： シラバスを確認し、実習に必要な器具・器材を準備して授業に臨むこと 事後学習： 取り組んだ実習内容は、指定教科書も併せて学習すること		
参考図書	最新歯科技工士教本「歯科技工実習」(医歯薬出版)						
特記事項	実習作品、レポートは最終授業の15日後、18時までに提出すること。 欠席、失敗等で進行が遅れる場合は担当者の指示をあおぐこと。						

授業計画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	設計、パラタルバー屈曲 〔66T-31(U)〕	実習	大連結子の役割、種類について理解する。 パラタルバー屈曲の方法、注意点について理解する。
2	パラタルバー屈曲、鑄造鉤Wax up 〔66T-31(U)〕	実習	パラタルバー屈曲の方法、注意点について理解する。 鑄造鉤ワックスアップの方法、注意点について理解する。
3	鑄造鉤 Wax up 〔66T-31(U)〕	実習	鑄造鉤ワックスアップの方法、注意点について理解する。 鑄造鉤の形態(太さ、厚さ、断面形態)について理解する。
4	鑄造鉤 Wax up 〔66T-31(U)〕	実習	鑄造鉤ワックスアップの方法、注意点について理解する。 鑄造鉤の形態(太さ、厚さ、断面形態)について理解する。
5	鑄造鉤 前準備～埋没 〔クラスPT〕	実習	鑄造鉤埋没の前準備、注意点について理解する。 鑄造鉤の埋没方法、注意点について理解する。
6	1.7 前準備～埋没〔66T-31(U)〕 鑄造〔クラスPT〕	実習	鑄造鉤の埋没前準備～埋没までの方法、注意点について理解する。 鑄造方法、注意点について理解する。
7	1.7 鑄造〔66T-31(U)〕 4.4 埋没前準備〔66T-31(U)〕	実習	鑄造方法、注意点について理解する。 鑄造鉤の埋没前準備の方法、注意点について理解する。
8	4.4 埋没完了〔66T-31(U)〕 鑄造鉤 研磨〔クラスPT〕	実習	鑄造鉤の埋没方法、注意点について理解する。 鑄造鉤の研磨方法、注意点について理解する。
9	4.4 鑄造〔66T-31(U)〕 鑄造鉤 研磨〔クラスPT〕	実習	鑄造方法、注意点について理解する。 鑄造鉤の研磨方法、注意点について理解する。
10	4.4.7 鑄造鉤 研磨 〔66T-31(U)〕	実習	鑄造鉤の研磨方法、注意点について理解する。
11	確認①:片側欠損模型 〔鑄造鉤 Wax up〕	実習	鑄造鉤の作業工程、注意点について理解する。 鑄造鉤ワックスアップの方法、注意点について理解する。
12	確認②:片側欠損模型 〔鑄造鉤 ～埋没〕	実習	鑄造鉤の作業工程、注意点について理解する。 鑄造鉤の埋没前準備～埋没までの方法、注意点について理解する。
13	確認③:片側欠損模型 〔鑄造鉤 鑄造～酸処理〕	実習	鑄造鉤の作業工程、注意点について理解する。 鑄造鉤の鑄造～酸処理までの方法、注意点について理解する。
14	確認④:片側欠損模型 〔鑄造鉤 酸処理～形態修正〕	実習	鑄造鉤の作業工程、注意点について理解する。 鑄造鉤の酸処理～形態修正までの方法、注意点について理解する。
15	確認⑤:片側欠損模型 〔鑄造鉤 研磨 完成〕	実習	鑄造鉤の作業工程、注意点について理解する。 鑄造鉤の研磨方法、注意点について理解する。

科目名 (英)	部分床義歯基礎実習Ⅲ Basic Training of Partial Denture TechniquesⅢ	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	小島 三知長
		授業形態	実習		有		
		時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
学科・コース	歯科技工士科Ⅱ部	単位	1	(コマ数)		曜日/時間	月～金/ 5・6限
講師紹介	歯科大学附属病院、歯科技工所(自費技工専門)、歯科診療所技工室の実務経験のある教員がその経験を活かして、部分床義歯製作に必要な理論と手技について指導する。						
目的	部分床義歯の人工歯排列や歯肉形成及び、それらの製作に関する理論と技術を習得する。						
科目概要	部分床義歯の製作に関する理論と技術を習得するために、人工歯排列や歯肉形成を行う。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 部分床義歯の人工歯の排列方法、注意点を理解し、実習をすすめることができる。 部分床義歯の歯肉形成の方法、注意点を理解し、実習をすすめることができる。 部分床義歯の流し込み法(シリコンコア法)の製作手順、注意点を理解し、実習をすすめることができる。 						
評価方法	<p>学期に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学期に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。</p> <p>評価は、実技試験については、「試験」と「作品の提出」を各40点、レポートの評価を20点の100点満点とする。初回授業のコマシラバスにて評価の項目を示す。</p> <p><input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input checked="" type="checkbox"/> レポート</p>						
教科書	最新歯科技工士教本「有床義歯技工学」(医歯薬出版) 配布資料 実習プリント(オリジナル)			事前事後 学習と その内容	事前学習： シラバスを確認し、実習に必要な器具・器材を準備して授業に臨むこと 事後学習： 取り組んだ実習内容は、指定教科書も併せて学習すること		
参考図書	最新歯科技工士教本「歯科技工実習」(医歯薬出版)						
特記事項	実習作品、レポートは最終授業の15日後、18時までに提出すること。 欠席、失敗等で進行が遅れる場合は担当者の指示をあおぐこと。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	パラタルバー屈曲、鑄造鉤 固定 〔66T-31(U)〕	実習	人工歯排列～蠟義歯完成までの技工術式の基本について理解する。 パラタルバー、維持装置の固定方法、注意点について理解する。
2	人工歯排列(中間欠損) 〔66T-31(U)〕	実習	部分床義歯の人工歯排列方法について理解する。 人工歯の調整方法、注意点について理解する。
3	人工歯排列(遊離端欠損) 〔66T-31(U)〕	実習	部分床義歯の人工歯排列方法について理解する。 人工歯の調整方法、注意点について理解する。
4	人工歯排列 完了 〔66T-31(U)〕	実習	部分床義歯の人工歯の排列方法、注意点について理解する。 部分床義歯の人工歯の削合方法、注意点について理解する。
5	歯肉形成(中間欠損)〔66T-31(U)〕 鑄造鉤 研磨〔片側欠損模型〕	実習	部分床義歯の人工歯排列～蠟義歯完成までの方法、注意点について理解する。 部分床義歯の歯肉形成(中間欠損)の方法、注意点について理解する。
6	歯肉形成(遊離端欠損)〔66T-31(U)〕 鑄造鉤 研磨〔片側欠損模型〕	実習	部分床義歯の人工歯排列～蠟義歯完成までの方法、注意点について理解する。 部分床義歯の歯肉形成(遊離端欠損)の方法、注意点について理解する。
7	蠟義歯 完成 〔66T-31(U)〕	実習	部分床義歯の人工歯排列～蠟義歯完成までの方法、注意点について理解する。
8	コア採得(中間欠損)〔66T-31(U)〕 コア採得(遊離端欠損)〔66T-31(U)〕	実習	部分床義歯の流し込み法(シリコンコア法)の製作手順について理解する。 シリコンコア採得法の方法、注意点について理解する
9	流蠟～分離材塗布〔66T-31(U)〕 人工歯 固定〔66T-31(U)〕	実習	部分床義歯の流し込み法(シリコンコア法)の製作手順について理解する。 流蠟～人工歯の固定までの方法、注意点について理解する。
10	流し込み～重合(中間欠損) 〔66T-31(U)〕	実習	部分床義歯の流し込み法(シリコンコア法)の製作手順について理解する。 流し込み用レジンの取り扱い方法、注意点について理解する。
11	流し込み～重合(遊離端欠損) 〔66T-31(U)〕	実習	部分床義歯の流し込み法(シリコンコア法)の製作手順について理解する。 流し込み用レジンの取り扱い方法、注意点について理解する。
12	流し込みレジン 修正 〔66T-31(U)〕	実習	部分床義歯の流し込み法(シリコンコア法)の製作手順について理解する。 流し込み用レジンの修正方法、注意点について理解する。
13	確認①:片側欠損模型 〔維持装置固定～人工歯調整〕	実習	維持装置の固定～蠟義歯完成までの技工術式の基本について理解する。 維持装置の固定～人工歯の調整方法、注意点について理解する。
14	確認②:片側欠損模型 〔人工歯排列～削合〕	実習	維持装置の固定～蠟義歯完成までの技工術式の基本について理解する。 人工歯排列～削合の方法、注意点について理解する。
15	確認③:片側欠損模型 〔Wax盛り上げ～蠟義歯 完成〕	実習	維持装置の固定～蠟義歯完成までの技工術式の基本について理解する。 ワックス盛り上げ～歯肉形成の方法、注意点について理解する。

科目名 (英)	部分床義歯基礎実習Ⅳ Basic Training of Partial Denture TechniquesⅣ	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	小島 三知長
		授業形態	実習		有		
学科・コース	歯科技工士科Ⅱ部	時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
		単位	1	(コマ数)		曜日/時間	月～金/ 5・6限
講師紹介	歯科大学附属病院、歯科技工所(自費技工専門)、歯科診療所技工室の実務経験のある教員がその経験を活かして、部分床義歯製作に必要な理論と手技について指導する。						
目的	部分床義歯を製作するために、加熱重合法と流し込み法の製作に関する理論と技術を習得する。						
科目概要	加熱重合法と流し込み法の特徴を理解し、各方法で部分床義歯の製作をする。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 部分床義歯のフラスコ埋没の方法、注意点を理解し、実習をすすめることができる。 加熱重合レジンを取り扱い方法、注意点を理解し、実習をすすめることができる。 レジン研磨に必要な器具、器材、取り扱い方法、研磨方法、研磨の注意点を理解し、実習をすすめることができる。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、実技試験として「作品提出」80点、レポートの評価を20点の100点満点で行う。初回授業のコマシラバスにて評価の項目を示す。 <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input checked="" type="checkbox"/> レポート</p>						
教科書	最新歯科技工士教本「有床義歯技工学」(医歯薬出版) 配布資料 実習プリント(オリジナル)	事前事後 学習と その内容	事前学習： シラバスを確認し、実習に必要な器具・器材を準備して授業に臨むこと 事後学習： 取り組んだ実習内容は、指定教科書も併せて学習すること				
参考図書	最新歯科技工士教本「歯科技工実習」(医歯薬出版)						
特記事項	実習作品、レポートは最終授業の15日後、18時まで提出すること。欠席、失敗等で進捗が遅れる場合は担当者の指示をあおぐこと。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	蝟義歯 修正〔片側欠損模型〕 再装着～削合〔66T-31(U)〕	実習	人工歯排列～蝟義歯完成までの技工術式の基本について理解する。 パラタルバー、維持装置の固定方法、注意点について理解する。
2	蝟義歯 修正〔片側欠損模型〕 削合～粗研磨〔66T-31(U)〕	実習	部分床義歯の人工歯排列方法について理解する。 人工歯の調整方法、注意点について理解する。
3	埋没 前準備～一次埋没 〔片側欠損模型〕	実習	部分床義歯のフラスコ埋没の技工術式について理解する。 埋没前準備～一次埋没までの方法、注意点について理解する。
4	レジン溜り～二次埋没 〔片側欠損模型〕	実習	部分床義歯のフラスコ埋没の技工術式について理解する。 レジン溜り～二次埋没までの方法、注意点について理解する。
5	三次埋没 〔片側欠損模型〕	実習	部分床義歯のフラスコ埋没の技工術式について理解する。 三次埋没の方法、注意点について理解する。
6	埋没 完了 〔片側欠損模型〕	実習	部分床義歯のフラスコ埋没の技工術式について理解する。 フラスコ埋没に必要な使用器具、器材、取り扱い方法について理解する。
7	流蝟～分離材塗布 〔片側欠損模型〕	実習	部分床義歯のフラスコ埋没の技工術式について理解する。 流蝟～分離材塗布の方法、注意点について理解する。
8	レジン填入～重合 〔片側欠損模型〕	実習	部分床義歯のフラスコ埋没の技工術式について理解する。 レジン填入～重合までの方法、注意点について理解する。
9	掘り出し～咬合器再装着 〔片側欠損模型〕	実習	レジン重合後～掘り出しまでの技工術式について理解する。 咬合器再装着の方法、注意点について理解する。
10	削合～粗研磨 〔片側欠損模型〕	実習	削合の方法、注意点について理解する。 レジン研磨(粗研磨)の方法、注意点について理解する。
11	粗研磨 〔片側欠損模型〕	実習	レジン研磨(粗研磨)の方法、注意点について理解する。
12	粗研磨 〔66T-31(U)〕	実習	レジン研磨(粗研磨)の方法、注意点について理解する。
13	仕上げ研磨 〔片側欠損模型〕	実習	レジン研磨(仕上げ研磨)の方法、注意点について理解する。
14	仕上げ研磨 〔66T-31(U)〕	実習	レジン研磨(仕上げ研磨)の方法、注意点について理解する。
15	研磨 完成 〔片側欠損模型、66T-31(U)〕	実習	レジン研磨に必要な器具、器材、取り扱い方法について理解する。 レジン研磨の方法、注意点について理解する。

科目名 (英)	歯冠修復技工学基礎 I Restorative Dentistry-Basic I	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	小島 三知長
		授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科技工士科Ⅱ部	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
		単位	1	(コマ数)		曜日/時間	月～金/ 5・6限
講師紹介	歯科大学附属病院、歯科技工所(自費技工専門)、歯科診療所技工室の実務経験のある教員がその経験を活かして、歯冠修復技工学に必要な理論と手技などを講義する。						
目的	治療により削られた又は失われた歯に合わせて様々な補綴装置を製作するために、必要な理論と手技を理解する。						
科目概要	歯冠修復技工学の概要、クラウンの概要と種類、具備要件について理解を深める。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・歯冠修復技工学の概要を理解する。 ・クラウンの概要と種類を理解する。 ・クラウンおよびブリッジの具備条件を理解する。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 筆記試験を100点満点として評価する。試験内容は、知識を確認する問題(空欄補充等)、理解を確認する問題(記述等)の両方を出題する。 <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input type="checkbox"/> レポート</p>						
教科書	最新歯科技工士教本「歯冠修復技工学」(医歯薬出版) 配布資料「国試に強くなる本」(オリジナル)			事前事後 学習と その内容	事前学習:教科書の該当ページをあらかじめ読んでおくことを推奨する。 事後学習:小テストに合格できるように授業の復習を行うことを推奨する。		
参考図書	歯科技工士国家試験問題集(医歯薬出版) 第5版 クラウンブリッジ補綴学(医歯薬出版)						
特記事項	国家試験科目(学説試験)						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	歯冠修復技工学の概要 クラウンの概要と種類	講義	<ul style="list-style-type: none"> ・歯冠修復技工学の意義・目的、臨床的価値について理解する。 ・クラウンの概要と種類について理解する。
2	Cr&Brの具備要件－1	講義	<ul style="list-style-type: none"> ・「歯冠修復技工学の概要、クラウンの概要と種類」の小テストを行う。 ・歯および歯列との関係について理解する。
3	Cr&Brの具備要件－2	講義	<ul style="list-style-type: none"> ・「Cr&Brの具備要件－1」の小テストを行う。 ・歯周組織との関係について理解する。
4	Cr&Brの具備要件－3	講義	<ul style="list-style-type: none"> ・「Cr&Brの具備要件－2」の小テストを行う。 ・清掃性との関係、材料の特性について理解する。
5	Cr&Brの具備要件－4	講義	<ul style="list-style-type: none"> ・「Cr&Brの具備要件－3」の小テストを行う。 ・支台歯のテーバーと保持力について理解する。
6	Cr&Brの具備要件－5	講義	<ul style="list-style-type: none"> ・「Cr&Brの具備要件－4」の小テストを行う。 ・ガルバニー電流、変色の原因について理解する。
7	Cr&Brの具備要件－6	講義	<ul style="list-style-type: none"> ・「Cr&Brの具備要件－5」の小テストを行う。 ・審美的要件について理解する。
8	復 習	講義	<ul style="list-style-type: none"> ・「Cr&Brの具備要件－6」の小テストを行う。 ・1回～7回までの授業で学習した内容を、教科書、配布プリント、小テストを活用して復習する。

科目名 (英)	歯冠修復技工学基礎Ⅱ Restorative Dentistry-BasicⅡ	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	小島 三知長
		授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科技工士科Ⅱ部	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
		単位	1	(コマ数)		曜日/時間	月～金/ 5・6限
講師紹介	歯科大学附属病院、歯科技工所(自費技工専門)、歯科診療所技工室の実務経験のある教員がその経験を活かして、歯冠修復技工学に必要な理論と手技などを講義する。						
目的	治療により削られた又は失われた歯に合わせて、様々な補綴装置や作業模型を製作するために、必要な理論と手技を理解する。						
科目概要	全部金属冠、部分被覆冠、作業用模型の製作法、辺縁形態の理解を深める。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・全部金属冠の特徴と製作法、製作上の注意点を理解する。 ・部分被覆冠の特徴、ブラックの窩洞分類を理解する。 ・作業用模型の種類と特徴、咬合採得を理解する。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。</p> <p>筆記試験を100点満点として評価する。試験内容は、知識を確認する問題(空欄補充等)、理解を確認する問題(記述等)の両方を出題する。</p> <p>■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート</p>						
教科書	最新歯科技工士教本「歯冠修復技工学」(医歯薬出版) 配布資料「国試に強くなる本」(オリジナル)			事前事後 学習と その内容	事前学習:教科書の該当ページをあらかじめ読んでおくことを推奨する。 事後学習:小テストに合格できるように授業の復習を行うことを推奨する。		
参考図書	歯科技工士国家試験問題集(医歯薬出版) 第5版 クラウンブリッジ補綴学(医歯薬出版)						
特記事項	国家試験科目(学説試験)						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	全部金属冠-1	講義	・全部金属冠の特徴、適応用途、製作法を理解する。
2	全部金属冠-2	講義	・「全部金属冠-1」の小テストを行う。 ・全部金属冠の特徴、適応用途、製作法について理解する。
3	部分被覆冠-1	講義	・「全部金属冠-2」の小テストを行う。 ・インレー、アンレーの特徴、ブラックの窩洞分類について理解する。
4	部分被覆冠-2	講義	・「部分被覆冠-1」の小テストを行う。 ・窩洞の構成、部分被覆冠の特徴について理解する。
5	作業用模型	講義	・「部分被覆冠-2」の小テストを行う。 ・作業用模型の種類と特徴について理解する。
6	辺縁形態	講義	・「作業用模型」の小テストを行う。 ・辺縁形態の種類と特徴について理解する。
7	咬合採得	講義	・「辺縁形態」の小テストを行う。 ・咬合採得、咬合記録材料を理解する。
8	復習	講義	・「咬合採得」の小テストを行う。 ・1回～7回までの授業で学習した内容を、教科書、配布プリント、小テストを活用して復習する。

科目名 (英)	歯冠修復基礎実習 I Training of Restorative Dentistry I	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	小島 三知長
		授業形態	実習		有	開講区分	
学科・コース	歯科技工士科 II 部	時間数	30	授業回数 (コマ数)	15		曜日/時間
講師紹介	歯科技工士として歯科大学附属病院、自費技工専門の歯科技工所、歯科診療所技工室での実務経験を有し、経験豊富な教員が歯冠修復技工学に必要な基本的な知識・技術を身につけられるよう、デモンストレーションを交えた授業を行う。						
目的	上顎第一大臼歯の蠟型採得(ワックスアップ)の手順と基本的な歯科技工技術について習得する。						
科目概要	全部金属冠のワックスアップの手順、上顎大臼歯の解剖学的形態を理解する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・上顎大臼歯の解剖学的形態を理解し、全部金属冠製作ができるようになる。 ・全部金属冠のワックスアップの手順を理解し、全部金属冠製作ができるようになる。 ・全部金属冠のワックスアップの製作上の注意点を理解し、全部金属冠製作ができるようになる。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、実技試験として「作品の評価」を70点、レポートの評価を30点として100点満点とする。提出日は最終授業日から7日後の16:45までとする。</p> <p><input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input checked="" type="checkbox"/> レポート</p>						
教科書	最新歯科技工士教本「歯冠修復技工学」(医歯薬出版) 配布資料 実習プリント(オリジナル)	事前事後 学習と その内容	事前学習： シラバスを確認し、実習に必要な器具・器材を準備して 授業に臨む。 事後学習： 取り組んだ実習内容は、指定教科書も併せて学習する。				
参考図書	最新歯科技工士教本「歯科技工実習」(医歯薬出版) 第5版 クラウンブリッジ補綴学(医歯薬出版)						
特記事項	国家試験科目(実地試験)						

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	咬合器装着 〔66T-46(U)〕	実習	咬合器(スペイシー)の正しい取扱い方、注意点について習得する。 上顎模型の正しい装着方法について習得する。
2	┆6 Cr. トレーニング Wax up〔盛り上げ～〕	実習	┆6 Cr. Wax up (盛り上げの手順)について習得する。 Wax upに必要な使用器具、器材について習得する。
3	┆6 Cr. トレーニング Wax up〔盛り上げ～〕	実習	┆6 Cr. Wax up (盛り上げの手順)について習得する。 Wax upに必要な使用器具、器材の正しい取り扱い方について習得する。
4	┆6 Cr. トレーニング Wax up〔盛り上げ～〕	実習	┆6 Cr. Wax up (盛り上げの手順)について習得する。 Wax upに必要な使用器具、器材の正しい取り扱い方について習得する。
5	┆6 Cr. トレーニング Wax up〔主溝と外形〕	実習	┆6 Cr. Wax up (主溝と外形)について習得する。 上顎左側第一大臼歯の解剖学的形態について習得する。
6	┆6 Cr. トレーニング Wax up〔主溝と外形〕	実習	┆6 Cr. Wax up (主溝と外形)について習得する。 上顎左側第一大臼歯の主溝と外形について習得する。
7	┆6 Cr. Wax up 〔盛り上げ～〕	実習	┆6 Cr. Wax up (盛り上げの手順)について習得する。 Wax upに必要な使用器具、器材の正しい取り扱い方について習得する。
8	┆6 Cr. Wax up 〔盛り上げ～〕	実習	┆6 Cr. Wax up (盛り上げの手順)について習得する。 ワックスパターンの取り扱い方法、咬合接触点について習得する。
9	┆6 Cr. Wax up 〔盛り上げ～〕	実習	┆6 Cr. Wax up (盛り上げの手順)について習得する。 咬合接触部を考えたワックスパターンの取り扱い方法、注意点について習得する。
10	┆6 Cr. Wax up 〔主溝と外形〕	実習	┆6 Cr. Wax up (主溝と外形)について習得する。 上顎左側第一大臼歯の主溝と外形について習得する。
11	┆6 Cr. Wax up 〔主溝と外形〕	実習	┆6 Cr. Wax up (主溝と外形)について習得する。 上顎左側第一大臼歯の主溝と外形、接触点の位置、形態について習得する。
12	┆6 Cr. トレーニング Wax up〔副溝〕	実習	┆6 Cr. Wax up (副溝)について習得する。 上顎左側第一大臼歯の解剖学的形態について習得する。
13	┆6 Cr. Wax up 〔副溝〕	実習	┆6 Cr. Wax up (副溝)について習得する。 上顎左側第一大臼歯の解剖学的形態、咬頭嵌合位での咬合接触点について習得する。
14	┆6 Cr. Wax up 〔マージンチェック～接触点盛り足し〕	実習	マージンチェックの方法、注意点について習得する。 接触点部へのワックスの追加方法、注意点について習得する。
15	┆6 Cr. Wax up 〔スプルー植立〕	実習	スプルー植立の方法、注意点について習得する。 スプルー線の種類、植立の原則について習得する。

科目名 (英)	歯冠修復基礎実習 II Training of Restorative Dentistry II	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	小島 三知長
		授業形態	実習		有		
学科・コース	歯科技工士科 II 部	時間数	30	授業回数 (コマ数)	15	開講区分	前期
		単位	1			曜日/時間	月～金/ 5・6限
講師紹介	歯科技工士として歯科大学附属病院、自費技工専門の歯科技工所、歯科診療所技工室での実務経験を有し、経験豊富な教員が歯冠修復技工に必要な基本的な知識・技術を身につけられるよう、デモンストレーションを交えた授業を行う。						
目的	全部金属冠のスプルーイング～研磨、インレーのワックスアップを習得する。						
科目概要	圧接法・盛り上げ法によるインレーのワックスアップの手順、チャネルトレイ法による作業用模型の製作法を理解する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 全部金属冠のスプルーイング～研磨の方法、注意点を理解し、実習ができるようになる。 インレーのワックスアップの方法、注意点を理解し、実習ができるようになる。 チャネルトレイ法による作業用模型の製作法、注意点を理解し、実習ができるようになる。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。</p> <p>評価は、実技試験として「作品の評価」を70点、レポートの評価を30点として100点満点とする。提出日は最終授業日から7日後の16:45までとする。</p> <p><input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input checked="" type="checkbox"/> レポート</p>						
教科書	最新歯科技工士教本「歯冠修復技工学」(医歯薬出版) 配布資料 実習プリント(オリジナル)			事前事後 学習と その内容	事前学習： シラバスを確認し、実習に必要な器具・器材を準備して授業に臨む。 事後学習： 取り組んだ実習内容は、指定教科書も併せて学習する。		
参考図書	最新歯科技工士教本「歯科技工実習」(医歯薬出版) 第5版 クラウンブリッジ補綴学(医歯薬出版)						
特記事項	国家試験科目(実地試験)						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	┃6 Cr. Wax up 〔埋没完了〕	実習	埋没の方法、注意点について習得する。 埋没材の取り扱い方法について習得する。
2	┃6 Cr. [鑄造～適合チェック] ┃6 Cr. トレーニング Wax up[完成]	実習	鑄造の方法、注意点について習得する。 全部金属冠の適合チェックの方法について習得する。
3	┃6 Cr. [スプルーカット～] 石膏注入 [In.T 模型]	実習	全部金属冠の研磨の方法、注意点について習得する。 石膏の取り扱い方法、石膏注入の基本操作について習得する。
4	歯型可撤式模型の製作[In.T 模型] ┃6 Cr. [接触点調整～]	実習	チャネルトレイ法による作業用模型の製作法、注意点について習得する。 全部金属冠の隣接面接触点の調整方法、注意点について習得する。
5	歯型可撤式模型の完成[In.T 模型] ┃6 Cr. [～粗研磨]	実習	チャネルトレイ法による作業用模型の製作法、注意点について習得する。 金属研磨(粗研磨)の方法、注意点について習得する。
6	┃6┃ In.T 模型 Wax up[圧接法～主溝と外形]	実習	チャネルトレイ法による作業用模型の製作法、注意点について習得する。 圧接法によるワックスアップの方法、注意点について習得する。
7	┃6┃ In.T 模型 Wax up[～完成]	実習	チャネルトレイ法による作業用模型の製作法、注意点について習得する。 インレーのワックスアップの方法、注意点について習得する。
8	┃6 Cr. [～仕上げ研磨]	実習	全部金属冠の研磨の方法、注意点について習得する。 金属研磨(仕上げ研磨)の方法、注意点について習得する。
9	┃7┃ In.T 模型 Wax up[盛り上げ～]	実習	┃7┃ In. Wax up (盛り上げの手順)について習得する。 盛り上げ法によるワックスアップの方法、注意点について習得する。
10	┃7┃ In.T 模型 Wax up[主溝と外形]	実習	┃7┃ In. Wax up (盛り上げの手順)について習得する。 上顎右側第二大臼歯の主溝と外形について習得する。
11	┃7┃ In.T 模型 Wax up[～副溝] 石膏注入操作チェック [MK1 模型]	実習	┃7┃ In. Wax up (副溝)について習得する。 機械練和(真空練和)による石膏注入の基本操作について習得する。
12	┃7┃ In.T 模型 Wax up[～完成] 石膏注入操作チェック [MK-1 模型]	実習	┃7┃ In. Wax up (副溝)について習得する。 機械練和(真空練和)による石膏注入の基本操作について習得する。
13	┃7┃ In. Wax up 〔盛り上げ～主溝と外形〕	実習	┃7┃ In. Wax up (盛り上げの手順～主溝と外形)について習得する。 咬合接触点部を考えたワックスパターンの取り扱い方法、注意点について習得する。
14	┃7┃ In. Wax up 〔主溝と外形〕	実習	┃7┃ In. Wax up (主溝と外形)について習得する。 上顎右側第二大臼歯の主溝と外形について習得する。
15	┃7┃ In. Wax up [副溝～完成] 基底面削除[MK-1(U)]	実習	上顎右側第二大臼歯の解剖学的形態、咬頭嵌合位での咬合接触点について習得する。 模型基底面の削除方法、注意点について習得する。

科目名 (英)	歯冠修復基礎実習Ⅲ Training of Restorative DentistryⅢ	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	小島 三知長
		授業形態	実習		有		
学科・コース	歯科技工士科Ⅱ部	時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
		単位	1	(コマ数)		曜日/時間	月～金/ 5・6限
講師紹介	歯科技工士として歯科大学附属病院、自費技工専門の歯科技工所、歯科診療所技工室での実務経験を有し、経験豊富な教員が歯冠修復技工学に必要な基本的な知識・技術を身につけられるよう、デモンストレーションを交えた授業を行う。						
目的	インレーの製作や臨床的な作業用模型製作を習得する。						
科目概要	メタルインレーの製作法やダウエルピン法による作業用模型の製作法を理解する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・インレーのワックスアップの方法、注意点を理解し、実習ができるようになる。 ・チャネルトレイ法による作業用模型の製作方法、注意点を理解し、実習ができるようになる。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、実技試験として「作品の評価」を70点、レポートの評価を30点として100点満点とする。提出日は最終授業日から7日後の16:45までとする。 <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input checked="" type="checkbox"/> レポート</p>						
教科書	最新歯科技工士教本「歯冠修復技工学」(医歯薬出版) 配布資料 実習プリント(オリジナル)			事前事後 学習と その内容	事前学習: シラバスを確認し、実習に必要な器具・器材を準備して授業に臨む。 事後学習: 取り組んだ実習内容は、指定教科書も併せて学習する。		
参考図書	最新歯科技工士教本「歯科技工実習」(医歯薬出版) 第5版 クラウンブリッジ補綴学(医歯薬出版)						
特記事項	国家試験科目(実地試験)						

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	7 In. [スプルー～埋没] 基底面削除[MK-1(U)]	実習	インレーのスプルー植立の方法、注意点について習得する。 模型基底面の削除方法、注意点について習得する。
2	7 In. [埋没 完了] ダウエルピン植立[MK-1(U)]	実習	インレーの埋没方法、埋没の注意点について習得する。 ダウエルピンの植立位置、植立方法について習得する。
3	鑄造操作チェック[7 In.] 回転防止溝～[MK-1(U)]	実習	鑄造の方法、注意点について習得する。 回転防止溝の役割、形成の方法、注意点について習得する。
4	鑄造操作チェック[7 In.] 二次石膏注入[MK-1(U)]	実習	鑄造の方法、注意点について習得する。 二次石膏注入時の注意点について習得する。
5	7 In. [適合チェック～] 歯型可撤式模型 仕上げ[MK-1(U)]	実習	金属研磨(適合チェック)の方法、注意点について習得する。 模型の仕上げ方法、注意点について習得する。
6	7 In. [粗研磨～] 下顎咬合器装着[MK-1(L)]	実習	金属研磨(粗研磨)の方法、注意点について習得する。 平均値咬合器の装着方法、注意点について習得する。
7	下顎咬合器装着 完了 分割・トリミング[MK-1(U)]	実習	咬合器の正しい取り扱い方法、注意点について習得する。 分割・トリミングの方法、注意点について習得する。
8	7 In. [仕上げ研磨～] 歯型可撤式模型(上顎) 完成	実習	金属研磨(仕上げ)の方法、注意点について習得する。 ダウエルピン法による歯型可撤式模型の製作方法について習得する。
9	7 In. [研磨 完成] 咬合器装着 完了[MK-1]	実習	金属研磨の方法、注意点について習得する。 平均値咬合器の装着方法、注意点について習得する。
10	実技トレーニング① 16 Cr. Wax up	実習	16 Cr. Wax up (主溝と外形)について習得する。 上顎左側第一大臼歯の主溝と外形について習得する。
11	実技トレーニング② 16 Cr. Wax up	実習	16 Cr. Wax up (主溝と外形)について習得する。 上顎左側第一大臼歯の主溝と外形について習得する。
12	実技トレーニング③ 16 Cr. Wax up	実習	16 Cr. Wax up (副溝)について習得する。 上顎左側第一大臼歯の解剖学的形態について習得する。
13	実技トレーニング④ 16 Cr. Wax up	実習	16 Cr. Wax up (副溝)について習得する。 上顎左側第一大臼歯の解剖学的形態について習得する。
14	実力確認 16 Cr. Wax up	実習	16 Cr. Wax up を通して、製作方法の理解度を確認する。
15	実力確認 16 Cr. Wax up [振り返り]	実習	16 Cr. Wax up を振り返り、改善点について習得する。

科目名 (英)	小児歯科技工学総論 Principles of Pedodontics	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	杉山 智美
		授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科技工士科Ⅱ部	時間数	15	授業回数	8	開講区分	後期
		単位	1	(コマ数)		曜日/時間	月～金/ 5・6限
講師紹介	昭和大学歯科病院小児歯科の歯科医師として臨床経験が豊富であり、小児成育歯科学講座においては歯学生の教育も行っている。また、保育士の資格も有し、小児の心理や成長発育の専門家でもある。これらの経験を活かし、小児歯科技工学に必要な知識や理論について、工夫を凝らした講義を行う。						
目的	小児歯科で用いる装置の製作に必要な、小児の成長発育の特徴について知識を習得する。						
科目概要	小児の歯列の成長発育についての基本的知識を理解する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・小児の成長発育の特徴(スキャモンの発育曲線)を説明することができる。 ・ヘルマンの歯齢を説明することができる。 ・乳歯萌出時期と順序および乳歯の特徴、各期の特徴(重要単語)を説明することができる。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 筆記試験を100点満点として評価する。試験内容は、知識を確認する問題(空欄補充等)、理解を確認する問題(記述等)の両方を出題する。 <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input type="checkbox"/> レポート</p>						
教科書	最新歯科技工士教本「小児歯科技工学」(医歯薬出版)	事前事後 学習と その内容	事前学習: シラバスおよび教科内容を確認し、教科書を音読(15分程度)				
参考図書	別途、授業内で紹介する。		事後学習: 授業の最初に実施する前回分の内容の確認テスト(穴埋め10問程度)に合格(60%以上)できる復習をしておく。(30分間以上)				
特記事項	国家試験科目(学説試験)						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	小児歯科技工学概説 小児の顎・顔面の成長発育	講義	小児歯科技工の意義と目的を理解する。また、小児歯科技工に携わるにあたり重要となる小児の成長発育の特徴(スキャモンの発育曲線)、小児の成長発育の評価に使用されるヘルマンの歯齢を理解する。
2	小児の歯列の成長発育 無歯期～乳歯列期	講義	無歯期から乳歯列期にみられる特徴を理解する。乳歯萌出時期と順序および乳歯の特徴を理解する。重要単語は顎間空隙、霊長空隙、発育空隙である。
3	小児の歯列の成長発育 乳歯列期～混合歯列期	講義	混合歯列期にみられる特徴を理解する。重要単語はターミナルプレーン、エレベーター交換・エスカレーター交換、みにくいアヒルの子時代、リーウェイスペースである。
4	「小児の顔面の成長発育」の復習	講義	教科書を再確認し、小児歯科技工学概説および小児の顎・顔面の成長発育の特徴の理解を深め、ヘルマンの歯齢を確実にする。
5	「小児の歯列の成長発育」の復習	講義	教科書を再確認し、小児の歯列の成長発育について理解を深め、乳歯萌出時期と順序および乳歯の特徴を確実に理解する。
6	「無歯期～乳歯列期」の復習	講義	教科書を再確認し、無歯期から乳歯列期の理解を深め、重要単語を確実に理解する。
7	「混合歯列期」の復習	講義	教科書を再確認し、混合歯列期の理解を深める。永久歯萌出時期と順序および重要単語を確実に理解する。
8	復習	講義	第1回～7回までに授業で使用した授業プリント、実施した小テストを復習し、試験に備える。

科目名 (英)	小児歯科技工学各論 Particular Theories of Pedodontics	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	杉山 智美
		授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科技工士科Ⅱ部	時間数	15	授業回数	8	開講区分	後期
		単位	1	(コマ数)		曜日/時間	月～金/ 5・6限
講師紹介	昭和大学歯科病院小児歯科の歯科医師として臨床経験が豊富であり、小児成育歯科学講座においては歯学生の教育も行っている。また、保育士の資格も有し、小児の心理や成長発育の専門家でもある。これらの経験を活かし、小児歯科技工学に必要な知識や理論について、工夫を凝らした講義を行う。						
目的	小児歯科で用いられる歯冠修復物や各種咬合誘導装置について、その特徴と製作方法の知識を習得する。						
科目概要	小児の歯冠修復や各種咬合誘導装置を理解する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・小児の歯冠修復の種類と特徴を説明することができる。 ・静的咬合誘導装置である保険装置の意義、分類、各種保険装置の特徴と製作方法を説明することができる。 ・動的咬合誘導装置であるスペースリゲーターの意義、種類を説明することができる。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 筆記試験を100点満点として評価する。試験内容は、知識を確認する問題(空欄補充等)、理解を確認する問題(記述等)の両方を出題する。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート</p>						
教科書	最新歯科技工士教本「小児歯科技工学」(医歯薬出版)	事前事後 学習と その内容	事前学習： シラバスおよび教科内容を確認し、教科書を音読することを推奨する。				
参考図書	別途、授業内で紹介する。		事後学習： 授業の最初に実施する前回分の内容の確認テスト(穴埋め10問程度)に合格できる復習を行う。				
特記事項	国家試験科目(学説試験)						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	小児の歯冠修復	講義	小児の歯冠修復の種類と特徴を理解する。
2	咬合誘導装置の分類 保険の意義と装置の分類と特徴	講義	咬合誘導装置に静的と動的があることを知り、静的咬合誘導装置である保険装置の意義について理解する。保険装置の種類を知り、それぞれの利点、欠点を理解する。
3	スペースリゲーターの意義、種類 口腔習癖除去装置の概要	講義	動的咬合誘導装置であるスペースリゲーターの意義について理解する。また、口腔習癖と口腔習癖除去装置の概要を理解する。
4	「小児の歯冠修復」の復習	講義	教科書を再確認し、小児の歯冠修復の種類と特徴の理解を深める。
5	「咬合誘導装置の分類」の復習	講義	教科書を再確認し、咬合誘導装置の分類について知り、保険の意義、各種保険装置の利点、欠点を理解する。
6	「各種保険装置」の復習	講義	教科書を再確認し、クラウンループ・バンドループ、ディスタルシューの製作上の注意点について理解を深める。
7	「各種保険装置」の復習	講義	教科書を再確認し、リングルアーチ、ナンスのホールディングアーチ、床型保険装置の製作上の注意点について理解を深める。
8	復習	講義	第1回～7回までに授業で使用した授業プリント、実施した小テストを復習し、試験に備える。

科目名 (英)	小児歯科技工実習 Practical Training of Pedodontics	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	小島 三知長
		授業形態	実習		有		
学科・コース	歯科技工士科Ⅱ部	時間数	30	授業回数	15 (コマ数)	開講区分	後期
		単位	1			曜日/時間	月～金/ 5・6限
講師紹介	歯科大学附属病院、歯科技工所(自費技工専門)、歯科診療所技工室において実務経験のある教員が、その経験を活かして、小児歯科技工に必要な基本的な知識・技術を身につけられるよう、デモンストレーションを交えた授業をする。						
目的	クラウンループ等の製作を通して、小児歯科治療の要点と小児歯科技工に必要な基本的な製作技術を習得する。						
科目概要	代表的な保険装置である、クラウンループ保険装置の製作実習を通じて、装置の目的、構成、製作方法の理解を深める。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・クラウンループ保険装置の製作方法、製作上の注意点を理解し、製作することができる。 ・矯正用線の屈曲方法、屈曲の注意点を理解し、製作することができる。 ・アダムスクラスプの屈曲方法、屈曲の注意点を理解し、製作することができる。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は実技試験として提出された作品を100点満点で行う。初回授業のコマシラバスに評価の項目を示す。</p> <p><input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input type="checkbox"/> レポート</p>						
教科書	最新歯科技工士教本「小児歯科技工学」(医歯薬出版) 配布資料 実習プリント(オリジナル)		事前事後 学習と その内容	事前学習： 実習に必要な器具・器材を準備して授業に臨むこと 事後学習： 指定教科書を活用して作成手順と作業の要点を復習すること。			
参考図書	矯正歯科技工・小児歯科技工 歯科技工学実習トレーニング(医歯薬出版)						
特記事項	実習作品は最終授業日の15日後、18時まで提出すること。 欠席、失敗等で進行が遅れる場合は担当者の指示に従うこと。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	乳歯冠の適合 〔クラウンループ 1〕	実習	乳歯冠の適合方法について、実際の操作を通じて理解する。
2	印象採得～作業用模型の製作 〔クラウンループ 2〕	実習	作業用模型の製作方法及び製作上の注意点について、実際の操作を通じて理解する。
3	設計～ループの屈曲 〔クラウンループ 3〕	実習	ループの設計線、屈曲の方法及び注意点について、実際の操作を通じて理解する。
4	鑑付け 〔クラウンループ 4〕	実習	鑑付け方法及び注意点について、実際の操作を通じて理解する。
5	研磨 完成 〔クラウンループ 5〕	実習	研磨の方法及び注意点について、実際の操作を通じて理解する。
6	振り返り 〔クラウンループ 6〕	実習	クラウンループの製作方法及び製作上の注意点について、実際の操作を通じて理解する。
7	模型調整～バンドの適合 〔舌側弧線装置 1〕	実習	維持バンドの適合方法及びその注意点について、実際の操作を通じて理解する。
8	バンドの適合～適合 完了 〔舌側弧線装置 2〕	実習	維持バンドの適合方法及びその注意点について、実際の操作を通じて理解する。
9	模型調整・設計 / 屈曲練習(A) 〔リテーナー 1〕	実習	リテーナーの模型調整、設計線の記入方法及びその注意点について、実際に操作を通じて理解する。矯正用線の屈曲方法及び、屈曲の注意点について、実際の操作を通じて理解する。
10	アダムスクラスプ 屈曲 6上 〔リテーナー 2〕	実習	アダムスクラスプの屈曲方法及び屈曲上の注意点について、実際の操作を通じて理解する。
11	複印象～模型製作 〔舌側弧線装置 3〕	実習	複印象から作業用模型の製作方法及び、製作上の注意点について、実際の操作を通じて理解する。
12	アダムスクラスプ 屈曲 上6 〔リテーナー 3〕	実習	アダムスクラスプの屈曲方法及び屈曲上の注意点について、実際の操作を通じて理解する。
13	接歯唇側線 屈曲 (A) 〔リテーナー 4〕	実習	接歯唇側線の屈曲方法及び屈曲上の注意点について、実際の操作を通じて理解する。
14	接歯唇側線 屈曲 (B) 〔リテーナー 5〕	実習	接歯唇側線の屈曲方法及び屈曲上の注意点について、実際の操作を通じて理解する。
15	接歯唇側線、アダムス 屈曲 完了 〔リテーナー 6〕	実習	接歯唇側線及びアダムスクラスプの屈曲方法と、その屈曲上の注意点について、実際の操作を通じて理解する。